明治三十八年七月二十五日發行

（明治二十年十一月本會創立）

婦人衛生雜誌

第百八拾八號

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
毎月一回二十日發行
内務省許可明治三十一年二月二十八日

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌

第百八十八號目次

●暑中休會

本會例會の義來八月及九月は炎暑中に付例により休會致し候

但本會雜誌は右に拘はらず兩月共發行致候也

明治三十八年七月

私立
大日本婦人衞生會

會員諸姉に告ぐ

日露兩國の交砲火を以て相酬ゆるに至りてよりはや十月あまりとはなりぬ。國運めでたくして戰はつねに我に利あれども其前途は尙はるかに遠し國をこぞつて共に力を致さむこと國民たるものゝつとめなれば國の爲め親をすて妻子をすてゝ進んで難にあたれる同胞の上を深く思ひやりて自らの力の及ぶかぎりはこれ等の人々の爲めに盡さむことはまた多く言葉を要せざる處なり然りながら世界に數多からぬ强大國を敵として戰ふことにしあれば一と度戰ふ毎に我同胞の傷き斃るゝものゝ甚だしきは萬を以て數ふるに至らん是が爲め本國に送らるゝ傷病者がいたてになやみて呻吟するさまのいかばかりかなさけなかるべき本會もかねてこれ等の人々の爲め慰の一品たりとも送らばやと思ひ居たる折柄近頃澁谷なる豫備病院にては病者に尤も必要なる帽子の夥しく不足せるよしを聞きければ是を寄送するとは誠に本會の相等しき事業と思ひ早速臨時會を開きて評議すべかりしも至急を要するの際已むなく役員會議にて種々評議の末本會基本金中より金貳百圓を出して同社へ寄附したり然りながら尙戰況の進むと共に傷病者も益々增加することなればこれ誠に九牛の一毛にも若かさるを覺ゆればひろくこれを會員諸姉にはかり一個たりとも多くてれが不足を補はむと欲してこゝに左の定めを設く希くは諸姉幸ひに多少の同情をよせられむ事を（つゞく）

一、本會の傷病者に對する帽子寄送は澁谷豫備病院とす

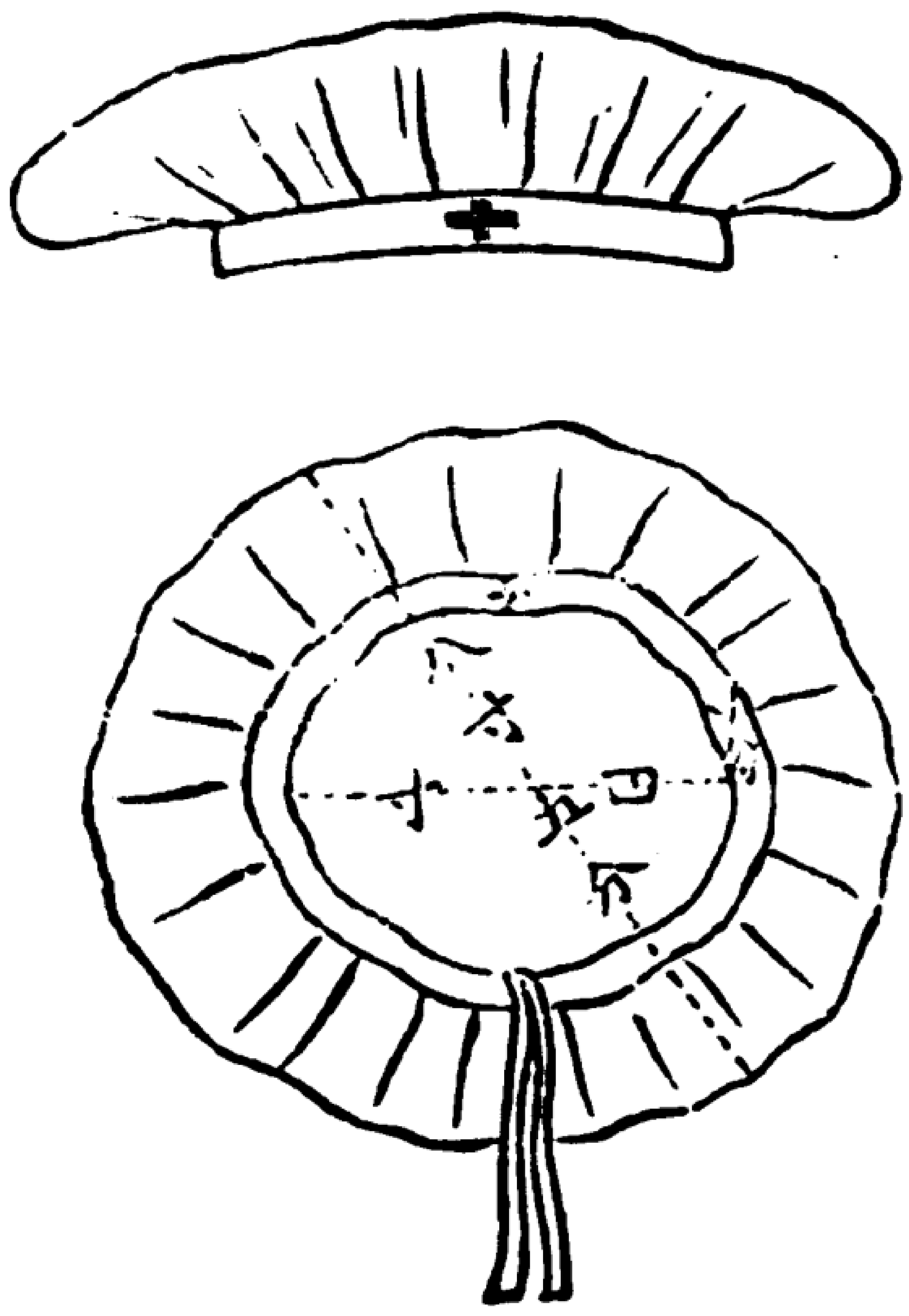
二、寄附者は（現品、現金、）何れとも御隨意本會事務所（牛込區上宮比町八番地）迄御差出しあれば本會は直ちに之を取纏めて寄附の運びをなす

三、寄附の金品に對しては本會事務所より受領證を交附すべきも豫備病院よりの受領證は一と纏めにしたるものなれば一々交附せず

四、本會は戰爭終局まで此事業を繼續し何時にても多少に拘はらず其取扱を快諾す

五、寄送者諸姉の人名其他右に關する要用の件は本會雜誌を以て報告す

六、寄送の帽子は左の雛形により調製の事



調製代價は本フランテル綿フランテルの別により多少の相違はあれども凡廿錢以上卅五錢位なり

明治三十七年十一月

大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を尽くし幸福快楽のうちに一生を送らんを皆ともに希はざるはあらざれども其身健康にあらざれば此生活を得んをいと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育児及看病法等の如きにいたりてはいとも緊要の事にして皆我等婦人のもつぱら掌るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の会合相寄て起り婦人社会も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衛生の術に至りては更に注意を払はざるものゝ如くまことに口惜しきことなり因りて頃日頃志婦人集ひ謀り一会を設け名けて私立大日本婦人衛生会といひ毎月一同集会を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講義演説談話を乞ひ互に相研究し尚之を筆記して冊子を編輯し会員に分ち聊か同胞の為めに尽すあらんとす茲に本会旨趣の梗概を叙べて廣く江湖の諸賢姉に告げ其賛成を仰ぐことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治廿二年十二月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ随て社會一般の幸福を増進するにあり●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三條　本會員たらんと欲する婦人は何人にても入會するを得●第四條　入會の節には姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す（交付手續は本會細則に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を賛成する者は之を賛成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に賛成員たることを望みたる所は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受ることを得●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親族知友より通知せらるべし但既納の會費は都て返戻さず●第九條　本會に[illegible]員を置き其中より總裁一名を[illegible]細則に譲るものとす●第十條　本會に左の役員を置く會長一名、副會長一名、幹事十名、評議員二十五名、書記若干名●第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の

[illegible]

を督促するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若くは廣告することあるべし

事務所　東京市牛込區若宮北町八番地　私立大日本婦人衛生會

◎役員姓名

総裁 東伏見宮依仁親王妃 周子殿下

会長 侯爵夫人 鍋島榮子

副会長 濱尾作子

（いろは順）

幹事 鳩山春子

仝 羽田三緒子

仝 隅田徳子

仝 高木かう子

仝 山本多穂子

仝 松平芳子

仝 三浦教子

仝 石川貞子

仝 岩下ゆか子

仝 濱田捨子

評議員 長谷川仲子

仝 仁禮壽賀子

仝 西升子

仝 穂積歌子

仝 土肥多越子

仝 緒方悦子

仝 岡山とし子

仝 小川孝子

仝 男爵夫人 加藤鈴子

仝 片山德子

仝 吉武輝技子

仝 丹波貞子

仝 高橋孝子

仝 田村きよ子

仝 相馬隆子

仝 男爵夫人 齋藤[illegible]子

仝 中濱芳子

仝 下岡[illegible]夫人 松平正子

仝 岸[illegible]子

仝 三宅[illegible]子

仝 宮本榮子

仝 宮下晄子

●支會 千葉、新潟、山形、宇都宮、茨城、高崎、米澤、、、、、、

本會特別贊成員

（●は本會に於て講演せられし諸氏）

醫學博士 ●入澤達吉君

醫學博士 ●飯島魁君

理學博士 ●伊澤[illegible]君

ドクトル ●色川[illegible]君

醫學 ●伊東[illegible]君

ドクトル ●飯盛挺造君

醫學博士 ●伊藤[illegible]君

理學博士 ●石川千代松君

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



（明治三十八年七月二十五日發行）

名家演壇

所感

ミセス、コーツ演説
佃速記事務所員速記

この間鳩山さんの奥さんの處に、明治母の會の御演說を願ひに參りました時に、何か衛生會で話をして呉れないかとおッしやいました、それから、私は何も衛生會に適當な話はございませぬけれども、皆さんが御存知の、有名なベルツさんといふお醫者さんに伺つたことで宜ければ、それを一つお話を致しませうと、約束をしたのでございますが、實は其後少し順序を立てゝお話の仕度をする暇があると思ひましたけれども、なか〳〵忙がしうございまして、その暇がございませぬで、むちやくちやなお話でございますが、この間帝國ホテルで、ベルツさんと云ふお醫者さんに面會が出來まして、私の質問にいろいろ答へて下さいましたから、その時伺つた順序にお話をいたします

ベルツさんに聞きましたことは、どういふことかと申しますと、日本の子供に着せる服は洋服がよいか日本の服がよいか、どつちが宜いかと云ふことに就いて、いろ〳〵質問をいたしたのでございます、それてどういふ譯でベルツさんに面會が出來たかと申しますと、三年前から私の方に明治母の會といふ會がありまして、丁度その會を立てゝから一年ばかり經ちまして、會員は大抵奥さん方でございますが、自分のお子さんに洋服を着せたいから、それに就て少し敎えて呉れないかと皆さんが仰しやつたのでございます、それで毎月する母の會に料理會がありますが、それに裁縫會を加へまして、いろ〳〵解り易い型を皆さんに裁つて上げたのでございます、それから其の料理の稽古と裁縫の稽古を「家庭の友」と

いふ雜誌に出しました爲めに、田舍の方から澤山注文がございまして、或月は百揃ばかりの注文が來たのでございます、それで私は、これは私が初めて日本に參りました時分と同じやうに、洋服といふものが只一時の流行であるか如何かと、いろ／＼考へました、私は明治十九年に日本に參りましたが、その時分大變に洋服が流行りました、それから復た段々流行らなくなりまして、殆ど見えない位でございました、この頃また隨分使ふやうになつて來たのですが、これは矢張り前の通り一時の流行であるか、また段々日本の子供にも洋服を使ふやうになるか、日本の服の方がよいか、また西洋の服の方がよいか、といふことを種々考へまして、それで皆さんと御相談をしたこともございます、

それから去年の暮まで母の會の裁物を世話した方が他處に參りましたにつき、その代りを搜しませうか又は母の會で洋服の稽古を廢めませうかといふ相談が起りまして、これは只一時の流行であるならば今廢めた方が宜からうと申しましたけれども、皆さんは、今度洋服が流行つて來たのは一時の流行でなくつて、多分洋服の方を使ふやうになるだらうと言ふのです。それで若しも然うであるならば、今までの樣でなく、もつと完全にしたい、もつと盛にやりたいと言ふ方もございまして、私も、若しやるならば今までより完全にしたいと言つたのでございます、それから母の會の中で一人引受けたいと言ふ方がございまして、今度母の會から出します型には、たゞの型ばかりでなく、說明も圖も附けて出したならば隨分皆さんの役に立つやうなものになるだらうと云ふ御相談がございました、それで若しもさういふ風にするならば、私は一個人の考ばかりでなく、同じ他の西洋人の友達とも相談したいと言ひまして、丁度三月に二度、東京の母の會のやうな會に關係のある御方と、また日本の方で一番交際の廣い方を招んで、さうして此の事に就いて相談をいたしました、それで其の中の一人の方が、ベルッさんと云ふお醫

者さんに洋服に就いての說を聞いたことがございまして、ベルッさんほど此の事に精しい人はないから、一度ベルッさんに面會して聞いた方が宜からうと仰しやるのです、それでベルッさんに面會したのでございます

皆さんに御相談しました時に、いろ〱お話が出まして、日本の着物と西洋の着物を比べると、いろいろの事を考へなければならないのでございます、一つは衞生の事を考へなければなりませぬ、一つは美術の事、一つは經濟の事です、それで私の西洋人の友達は、美術の方から考へて見ると日本の着物が宜いと仰しやるのです、大抵西洋人は然う言ふのでございます、また今日は衞生會でございますから其の事に就て別に詳しいお話はいたしませぬが經濟の事です、經濟の事は如何がと云ひますと、それは私共西洋人には分かりませぬ、或方は、洋服にしたいけれども大變お金が要るから出來ないと言ふ方がございますけれども、この間から伳の會で裁縫の事を受持つて居らつしやる方は、なか〱然うではないと言ふのでございます、それはお金をかけたいと思へば幾らでも掛けることは出來ますけれども、平常着を拵へるためには却つて日本服よりもお金が要らないと云ふのでございます、私は日本の着物に就て詳しくありませぬから、一揃どの位かゝると云ふことを本當に比べることは出來ませぬけれども、日本人の友達が其の事に就て考へたことがございまして、その點は必然經濟になるだらうと仰しやるのでございます

今日は美術の事や經濟の事に就てお話する積りではなくつて、主に衞生の事でございますが、私の友達に、まア美術の方から考へたら日本の着物の方が宜いと皆さんが思つても、衞生の方から考へて見たら如何でせうかと聞きましたらば、どうも餘程この事に就ては研究しなければ分らないと、大抵の方は仰しやるのでございます、お醫者さんのやうに研究しなければ能く分らない、それに私共の洋服と申しま

してもなか〳〵完全な者ではございませぬ、私共も改良しなければならないと言つて居る缺點があるので、なか〳〵完全なものとは言はれませぬ、けれども其の友達の言れますのに、ベルッさんの御説を聞くまでは、どうも日本の着物の方が宜いと思つて居たけれども、衛生の方から考へて見ると、どうしても洋服でなければならないと云ふことを信ずるやうになつたと仰しやるのでございます、ですから私はベルッさんに御目に懸かつたときに、主に衛生に關係のある問をかけたのでございます、先刻お話いたしました通り、よく考へて順序を立てゝお話をつくる暇がなかつたのでございますから、お羞かしいことでございますけれども、ベルッさんに伺がつた順序にお語いたしませう

一番初に帯の事を聞いたのでございます、皆さんは多分御存知でございませうが、西洋人の殆ど半分の餘は、着物の下にコオセットといふものを締めますが、西洋で着物の改良をやかましく言ふ人は、どうしてもコオセットを廢めなければならない、身體にわるいからと言ふのでございます、それでコオセットと帯と、どつちが害があるかと聞いたのでございます、ベルッさんの仰しやるのに、多分帯の方が害があるだらう、勿論コオセットといふものは主に身體の一處に締めるのでございまして、帯の方は一處でなくつて一體に締めるから、その事だけ考へたならばコオセットの方が害が多い、けれどもコオセットより帯の方が厚い、厚過ぎるから身體に害がある兩方考へますならば帯の方が害が多いと仰しやるのです、デいろ〳〵病院で試驗を爲たさうでございますが、男の呼吸するのと女の呼吸するのとは同じである筈ださうでございます、けれども帯を締めると呼吸がちがつて來て、女の方は丁度西洋人がコオセットを締める時と同じやうな呼吸をする、帯を取ると丁度男の呼吸と同じださうでございます、それですから其の害といふものは、大抵コオセットと同じやうに或は多い位であるでせうと仰しやいました

それは大人のとてでございますが、子供ならば、小さい子供には日本の着物は紐を締めるのださうてございますが、それは軟かい骨に害があるさうてございます、西洋の着物でありますと——私は見本を持つて參りました、本當に不出來てすけれども、小さい子供には斯ういふウエストを附けまして、下の着物はロールスだの半ズボンて、外は皆ボタンを掛けるのてございます、それから又靴下ても護謨の輪を使はないて、靴下の吊りといふものがありまして、それもウエストからつるのてございます、それてすから靴下を上に引ッ張ることも、下の着物も、みな其の重量を肩から吊すのてす、てすから軟かい骨に害がありませぬ、このコオセットといふものは大人になつてから締めるのでございます、けれども此頃は矢張り大人になつてもコオセットを使はないて、之れに似たものを使ふ人が段々多くなりました、てすから若しも御子さん又は自分が洋服をお使ひになるならば、どうかして惡いものをお取なさらないて、洋服の好いものばかりを撰んで御使ひになるやうに願ひたい、どうかして私共の間違をお取りなさらないて洋服の好い點はかりをお取りになつて、それを段々完全なものに進めるやうに願ひたいと思ます、若しも皆さんが然うなさるならば、西洋人が是れは惡るいと知つて居つても、餘程前から使つて居りましたから、なか／＼捨てにくいのでございますけれども、若しお皆さんが先だつて、惡るい所を捨て、善い所ばかり使ふやうになりますと、また私共が皆さんの眞似をするやうになるかも知れませぬ

この事に就てもう一つベルッさんのお言なすつたことがございます、それは肋骨でございます、御承知の通り肋骨は十二本あつて、その一番上の十本は附着いて居り、下の方の二本だけは附着いて居ないのてございます、さうして日本の方は帶を締めるためてすか夫れは能く存じませぬが、西洋人の方はコオセットを餘り堅く締めますから、その骨に害が有るさうてございます、ベルッさんは其の事に就て試驗

をしてお覧なすたさうでございます、餘り始終締めるから其の部分が段々小さくなる、それから骨を調べて見ると、下の方の二本だけばかりでなく、もう一つが附着いて居ないのでございます、一番仕舞から三番目のは外のと附着いて居る筈ですけれども、それは附着いて居ない、それから十一と十二番目のは殆ど無いさうでございます、段々小さくなつて失くなつて居る、それほど短くなつたのもあると仰しやつたのでございます、それは日本にも隨分有るさうでございます、それで日本の方でも西洋人でも腰が餘り小さくなつて居るならば、必然肋骨がさういふようになつて居る。それですから、どの着物を取つても成るたけ此の骨に害のない服の方が宜いと仰しやるのでございます、それで洋服には假令缺點があつても、日本の服よりは缺點がまだ少いと仰つしやいました、大きくなるまで日本の服ばかりお召しなすつた方は、洋服にすると寒いと仰しやるさうでございます、勿論洋服の方は薄く着るに違ひないと思ひますけれども、子供の時から習慣を附けましたならば、そんなに寒がらないだらうと思ひます、私共はそんなに寒いと云ふ感じはございませぬ、それでベルッさんが言ふのに、實は日本人殊に赤兒や子供には、日本の着物は厚過ぎると仰しやいます、子供が病氣のために招ばれた時には、着物を調べて見ると大變に重過ぎるので、それで病氣になつたことも隨分あり、又中には着物が重過ぎる爲めに死んだのもあると仰しやいました、また或時何處かへ招ばれたときはは、着物を段々除つて十三枚ばかり除つたこともございましたさうです、それですから却つて着物が薄い方が宜いに違ひありませぬ、名前をお話する譯に往きませぬけれども、日本の隨分名高い人の御子さんが病氣になつて亡くなつたこともあると仰しやる、それはお醫者さんの眼から見ると、多分着物が重過ぎるから然ういふ風になつたと云ふ考てございます。

其の次に私が伺ひましたことは靴の事てございま

す、靴か下駄か、どつちが宜いか、さうしてベルツさんは、雨天でなければ靴の方が宜いと言のです、それは只歩きいゝからと云ふ譯てはございませぬ、皆さん御氣お附なさいましたか、如何か存じませぬけれども、日本の方の中には隨分足が曲がつて居る方がございます、私共は弓足と謂ひますが、西洋にも少しは有るのでございます、あれは小さい子供が歩きだした時分に、母親が十分に氣を着けないから大抵は然うなつたのでございます、それは身體が餘り肥つた子供に、餘り早く歩くやうに勸めるから足が曲がるのでございます、それて今まで日本では疊の上に座るから然うなつたと思ひましたけれども、ベルツさんは然うでないと言仰るのです、半分は然うかも知れませぬけれども、半分は下駄のためです、下駄の上に足を眞直に置かないから曲がつて來るので、それを直すには、どうしても靴でなければならないと言ふのです、けれども今主に流行つて居る西洋の靴は、先が餘り尖がつて居ります、どういふ譯て靴屋の方は夫れが本當の西洋風であると考へたか存じませぬが、時々西洋にはさういふのが流行るのです、けれども西洋にも隨分馬鹿らしい流行が澤山ございますてすから、何卒皆さんは夫れに從はないで、獨立の御考で、丁度日本では法律でも學問でも何でも大變お上手に方々の國々からお取りになつて、日本に適當なものを撰んでお作りになつて、外の國々の人が皆感心して居りますが、どうぞ洋服の事も、假令さういふ馬鹿らしい流行が西洋にありましても、それは馬鹿らしいから私共は取らないといふやうに、皆さんが夫れに從はないやうに願ひたいと思ひます、さうして何卒これから靴屋に行らつしやる度に馬鹿に尖がつて居るのをお覧なすつたら、やかましくお話して戴きたいと思ひます、私共が靴屋に行つて話しても中々聞きませぬ、何故かと云ひますと、その尖がつたのを皆さんが買なさるから、それて靴屋の方て尖がつたのを賣るのでございます、靴屋の方では衛生の事は考へませぬ、お金の

事ばかり考へて居ります、ですから尖がつて居る靴が餘計に賣れゝば、どうしても尖がつて居るのを拵へるに違ひありませぬ、尖がつて居るのが能く賣れなければ、それを誂へるのを止めるに違ひありませぬ、ですから、どうしても靴をお使ひになる方の方から段々それを直さなければならないのでございます、私も近頃靴屋に行く度に、どうして斯ういふものを拵へるかと聞きますけれども、なか〱私一人だけではいませぬ、どうか皆さんが然ういふ風にやかましく仰しやつて戴きたい、餘程尖がつて居る靴でも、足より少し長くするならば障りがないかも知れませぬが、足と同じ位の長さにして、さうして尖がつて居りますと、容易に穿くことは到底出來ませぬ、何故かと云ひますと、足は三角になつて居ないのです、反對の恰好ですから、よつぽど足より長くしませぬければ害があるのでございます、足の恰好に能く合はして加減を好くして拵へた靴ならば、それは下駄よりも宜いといふ御説でございます、それに一つの時は、下駄を使つた方が宜いといふ時がございます、それは雨の降る時です、私も餘程前から、雨の降る時には下駄を穿きたいと云ふ考があります、また男の書生さんに、どういふ譯で雨の降る時に下駄をお穿きなさらないかと申しますと、洋服と下駄では誠におかしいと仰しやる、それはおかしいかも知れませぬけれども、私共の眼から見ますと、靴の方が尚ほおかしうございます、何故と申しますと日本の道路がまだ西洋のやうになつて居ない、西洋では道路の兩側にサイドといふものがありまして、それが石で出來て居ります、さうして外より高いからドロ〱になりませぬから、そこを歩きましても、そんなに足が汚れませぬ、濡れませぬ、それから又私共は雨の降る時に外に參りますと、靴の上に護謨の上靴を穿きますから、中の靴は汚れませぬ、また濡れませぬ、泥だらけの道を靴で歩きますと體無になつて、決して革が元の通りになりませぬ、また靴をわるくするばかりでなく、そこに一つの害が

ありります、それは男の方は害が少ないかも知れませぬが、女の書生さんが、雨の降る時に學校まで靴て行きますと、足が濡れるに違ひないと思ひます、それから其濡れた足の儘で晝まで勉强して居ますと、餘程害があるだらうと思ひます、そこで多分この日本の道路も、いつか矢張り西洋の道路と同じやうになるかも知れませぬが、さうでない間は　ベルッさんの仰しやるのに、丁度日本の足袋のやうに靴下を拵へる、さうすると雨が降る時に靴下の儘で下駄を穿くことが出來る、けれども靴は學校の規則ですから、或はさういふことならば靴を學校に持つて行かなければならないと仰しやる、私は學校の規則は詳しいことは存じませぬが、若しもどうしても靴でなければならないと云ふ譯なら、やつぱり仕方がないてございませう、ベルッさんの仰るのに、學校の内では、靴や草履よりも宜いものがございます、この間華族女學校にお勸めなすつたさうです、之も皆さんお笑ひになるかも知れませぬが、それは車夫が穿く黑い足袋でございます、底は麻の紐で厚く出來て居ります、之れが餘程宜いと仰しやるのです、なぜと云いますと、體操のときに外に出て、また學校の内で體操をやるときにも、それを穿きますと足が一番自由になつて、一番丈夫になると云ふのです、若しも學校の内で之れを穿いたならば、誰でも一足位は學校に置くことが出來ますから、それで天氣の好いときには靴を穿いて、雨の降るときには下駄を穿いて學校まで行き、さうして足袋と取替へると、別に難かしいことはないだらうと仰しやるのでございます、華族女學校でそれを使ふか如何か知りませぬけれども、どうかして書生さんがさういふ風になさるやうに願ひたいと言ふのです、これは私が言ふと皆さんがお笑ひになるでせうが、ベルッさんのやうに十五年ばかり研究した有名なお醫者さんが言ふなら、或は中にはお考へなさる方があるかも知れませぬ、勿論護謨の上靴を穿けば、それで學校で通りますから宜しうございますが、日本の今の道路では、

多分上靴がもたないだらうと思ひます、砂利の上などを歩るくと忽ち切れますから、殆ど毎月買ふやうなことになつて大變不經濟な話てす、それはかりてなく、なにか日本の氣候のためでせうか、護謨が大變早く腐ります、私が國元から取寄せましたものてまだ一度も使はない新しいものでもそれが縫目が別々になつてしまいました、氣候のために大變早く惡るくなるやうに思はれます、ですから書生さんが一般に上靴を使ふことは出來ないだらうと思ひます、さう云ふ譯てございますから上靴を使ふことも出來なくつて、道路も西洋のやうにならない間は、どうかして雨の降る時だけは下駄を穿くことをお勸めしたいと思ふのです

その次に伺つたことは帽子の事でございます、是れは別に衛生には太した關係がないかも知れませぬけれども、洋服を使ふならば、どうしても帽子がなくつちやならないと云ふお考があるでございませう、これも丁度二月に、他の西洋人の友達を招びましたときに、二度とも帽子の事を聞いたのでございます、着物は何うか斯うか子供に適當なのが出來ませうけれども、まだ帽子の方はさう容易く出來ませぬから、帽子は如何しませうかと聞きましたら、どうも帽子だけは廢めたいと、大抵の西洋人は言ひました、どういふ譯て廢めたいかと聞きますと、どうも未だ日本では――只學校に行く帽子位なら出來ませうけれども、飾り帽子といふものは何だか日本の方に似合ふやうなのが出來ない、着物はよく似合つても帽子を被ると何だかおかしいと、友達が言つたのてございます、それに五年ばかり前から西洋て、帽子が流行らなくなつたと云ふこともございますから、日本の方にも夫れをお勸めしたら宜いだらうと言ふのです、デ私は此ごろ國へ歸りませぬから、どれ程帽子が流行らなくなつたか知りませぬけれども、平常は矢張り西洋風て帽子を被つて居りまして、音樂會や宴會や、御馳走にても招ばれる時には、よく帽子を被らないことが多いのでございませう、冬

ならば頭巾を被つて行き、殊に馬車に乘つて行けば帽子は殆ど使はないのでございます、それから此ごろ國に歸つた方の仰しやるのに、亞米利加でも或處では、教會へ行つて隨分帽子を取ることがある、電車に乘つても道路を歩いても、帽子を被らない人を隨分見ると云ふのです、また或處では、つまり今日のやうな御集會や、殊に音樂會ならば皆帽子を取るやうに言ふのでございます、それですから其處まで帽子を被つて行つても、内に這入つたら帽子を取るのです、私は先日上野の音樂會に參りまして、餘程この事に就いて考へたのでございます、先日の音樂會には、宮樣も、公使さんの奥さんも入らしつたのでございます、それで宮樣の帽子も、また公使さんの奥さんの帽子も隨分綺麗でございました、丁度、花園のやうに見へたのでございます、けれども其の帽子がなか／＼邪魔になりました、私、前に居た人は大きな帽子を被つて居りましたので、私は首を右へやつたり左へやつたりして、やうやく其の歌ふ人が見えた位でございます、また私の帽子は、美術の方から考へて見ると隨分綺麗だと思ひますけれども、この帽子も、私の後隣席に坐つて居る人には、なか／＼邪魔になつたらうと思ひます、それから先日亞米利加から歸つて來たばかりの方で、今亞米利加で流行つて居る帽子を被つたのでございませうか、けれども夫れが中々見苦しいのでございました

また自分の事を話しますならば、この春に妹が新規の帽子を送つて呉れましたが、ミストル、コルツが夫れを見て大變笑ひました、それは土を堀る鋤のやうな形で、大變厭なものです、それは西洋に流行つて居ると人が綺麗だと思ふかも知れませぬが、流行つて居ない時に持つて來ると本當に見苦く見ます、妹はそれが大變綺麗だと思つて送つて呉れたのですけれども、それは只西洋の方に流行るから綺麗だと思ふのです、例へば今被つて居る帽子は、多分何處の誰が見ても見苦しいと思ふことはないでせう、それですから美術の方から考へて見て綺麗なのもあ

るのです、けれども又美術の方から考へて見て綺麗でないのもございます、ですから只流行るから人が綺麗だと思ふので、美術の方からやかましく論じたならば綺麗な點が一つもないのがございます、先日私も然う思ひました、假令綺麗であつて誠に花園のやうであつても、これほど邪魔になる帽子は廢したいと思つたのです、たゞ私共の方では、日本の大抵の方は帽子をお被りになると可笑しいから廢めたいといふ考がございましたけれども、ベルッさんに聞きますと、それは理由があるのです、勿論日本の方が帽子を被ると不恰好だといふことは何時でも言はれませぬ、同じ日本の友達で、紐育に行つて時々歸つて來る方がございますが、その方は身長が高くつて頭が小さくつて、大變よく似合ひます、私共よりは餘程粹な風てす、さうしてベルッさんが仰しやるには、恰好の好い身體は、頭が身體の七分の一ださうです、ごく別嬪なら八分の一ださうです、けれども日本人は普通身體は比べて見ると六分の一ださうてございます、それてすから其上に又帽子を被りますと、よつぽと不恰好に見えるのです、それから日本て隨分有名な婦人ですけれども、永い間西洋に在らすつて、お歸になつた時に帽子を被つて在らすつた、さうして其の方は普通の日本の方よりも體格が小さい、それでベルッさんがお笑ひなすつて、あなたは直に其の帽子をお廢めになるてせうと仰しやいますと、いゝえ決して廢めませぬと仰しやつた、けれども近頃は最早滅多にお被りになりませぬて、殆どお廢めになつたやうでございます

それからベルッさんの仰しやるのに、學校に行く間は、若しも輕ひ藁帽子を被るならば、傘をさすよりも宜いかも知れぬ、傘をさすのは骨が折れるから或は帽子の方が宜いかも知れぬ、けれども他處へ行くとき好い着物をお召しなさる時には、傘をおさしになつた方が宜いだらうと言ふのです、また冬になりますと、洋服ても矢張り皆さんの頭巾の方が宜いと仰しやる、私も其の說てございます、私共の眼から

見ますと、皆さんの頭巾は随分綺麗なものだと思ひます、いつでも褒めるのでございます
序ですから一寸お話いたしますが、是れは二月頃か能く覺えては居りませぬけれども、讀賣新聞に、束髮で帽子を被らないと、なんだか乞食や下女のやうだと云ふことが出ましたさうですが、それは誠に馬鹿らしい話でございます、さうではございませぬ、西洋では先刻申上げました通り、音樂會や芝居などに行きますのに、好い奧さん方が矢張り頭巾のやうなものを被ることが随分ございます、勿論平常道路を歩きますときには帽子を被りますけれども、帽子を被らないから乞食や下女のやうだと云ふことはございませぬ、どうぞ皆さん、束髮をお廢めなさる方がないやうに願ひたいと思ひます、誰がそれを書きましたか存じませぬけれども、誠に本當でないことでございます、それから私は日本の髮の事は餘りよく知りませぬけれども、衛生の方から考へますと、束髮の方が宜いには違ひないのでございます、その日本の髮と束髮と何方が宜いかといふことは、それは又鳩山さんの奧さんか外の方に論じて戴きませう私は束髮の方が宜いと思ひますけれども、束髮だから是非帽子を被らなければならないと云ふ理由はございませぬ
餘り長くなりましたから、もう一つ二つを短くお話いたしませう、この二月に私が西洋人と相談しました時に、一人の方は——一人ばかりでなくつて外の方も然う言ひましたけれども、よつほど八釜しく此の高襟のことを仰しやつたのでございます、若しも日本の方が洋服をお使ひなさるやうになるならば、どうかして高い襟をやめて、低い襟又は襟無しの方が宜い、出來るならば襟無しの洋服にした方が宜いだらうと仰しやいました、私も其の事はベルッさんに伺ひましたが、ベルッさんも其の御說でございます成るたけ、低い方が宜いだらうと言ふのです、何故といふと、皆然うではございませぬけれども、西洋人よりは皆さんの頸が短いからです、男の方は随

分ハイカラが流行りますけれども、之れも私は餘り宜くないと思ひます、ですから若しも女の方が洋服をお使ひになりましても、どうかしてハイカラ黨を見習はないやうに願ひたいと思ひます、殊にベルツさんの仰しやるのに、若しも始終洋服を使ふならば害がないかも知れない、短い頸に高い襟を附けるから只不恰好だけですけれども、若しも日本の服に替へることが隨分ございませう、さうすると襟無しでございませう、その時分には必然氣管に風をひくだらうと言ふのです、ですから成たけハイカラを廢めるやうに勸めた方が宜いだらうと仰しやつたのでございます、私の友達は大抵、襟の事を考へて見ましても、又學校へ行けば體操もありますし、或は歩くことも考へなくつちやなりませぬし、いろ〳〵の事を考へなければなりませぬので、どの點から考へて見ましても、水兵が一番宜いだらうと言ふのです、

私の友達で、これは奥さんになつて居る方でありまして、殆ど三十歳でございますが、平常でも運動や會合の時でも矢張り水兵を使つて居ります、さうして初は襟があつたけれども取つたと仰しやるのです、ですから皆さん氣を着けて御覽になりますと、西洋人でも襟のないのが隨分ございます、それですから頸が長い方なら不恰好のことはなく、それは御自由ですけれども、成たけ恰好の好いものをお使ひになるやうに勸めたいと思ひまして、それで此の襟の事をお話申すのでございます、水兵ならば、襟無しの水兵は大變恰好が宜しうございます、ですから西洋人も使ひます、それは日本の方殊に學校に行く方が體操などをするのに適當ださうでございます、また夏になりますと大變涼しいさうでございます、若しも皆さんが、經濟の點につき之れを考へた方にお聞きなされたいならば、今日母の會から、然樣な事をやつて居らつしやる松井さんといふ方が來て居らつしやるから、どうぞ後でお聞きなすつて下さい松井さんは隨分お調べになつたさうでございます、あとで皆さんに御紹介いたします

この洋服の事を餘程前から考へますのに、若しも皆さんが洋服をお使ひなさる爲めに、或は生活が段々込入つたものになるてはないかと思つて、隨分心配したこともございます、若しも洋服をお使ひなさるならば、どうかして何もかも西洋のまゝをお取りなさらないて、缺點のあるものは捨てゝ好い所ばかりお取りになつて、さうして日本の事情や生活に適當なものばかりお取りになるやうに願ひたいと思ひます、假令少し西洋人が笑ふことがありましても、皆さんは獨立の考でおやりなさるやうに希望いたします、また西洋ては種々のわけて――これは着物ばかりてはございませぬけれども、種々のわけて段々生活が込入つたものになりまして、隨分困ることもございます、それて此ごろチャールスバルネーといふ人が「單純は生活」といふ題て書物を出してございます、この方は佛蘭西人でございまして、初に佛蘭西語て其の書物を書いて、さうして夫れを英語ばかりてなく他の國々の言葉に飜譯してあるのがございます、二三年前に出來た書物でございますけれども、大變方々の國々て流行つて、よく賣れたさうてございます、今でもよく賣れるさうです、この人は今年亞米利加に行きまして、丁度佛蘭西に歸るのに日本へ廻る筈でございましたけれども、病氣になつて直ぐに歸つたさうでございます、この書物は、西洋で段々生活が込入つたものになつて隨分困ることがあるから、どうかして、もつと單純な生活に還りたいといふ考で、この書物を書いたのでございまして、私も讀んだことがございますけれども、隨分好い事を考へる種がございます、どうか皆さんは、洋服の事ばかりでなく外の事も、皆さんの生活と西洋の生活と比べて見ますと單純には違ひありませぬから、どうかして洋服をお使ひになりましても、皆さんの生活が段々込入つたものにならないやうに、お擇びなさるやうに、願ひたいと思ひます、それてすからいろ〳〵細かい事に就いて外の人とも御相談して、今日皆さんにお話し申した譯でございます、誠

に無茶苦茶なお話でございましたが、どうぞ御容しを願ひます



（了）

ヂフテリーの話

醫學士　澄川　德君演說

只今は寺田君が最も爽かな辯舌で毛髮病附けたり髮結のお話がございまして、あれ程に艶やかに且明瞭に申上げますと、餘程お聞き下さる方に御退屈がなくて宜からうと存じます、私は之に反しまして誠に口の不重寶で、殊に田舍からポッと出否な多少大勢の御方の前で饒舌りましたこともございますが、斯く貴婦人方のお集りになつた處で饒舌たことは一遍もございませぬので、どうか出來損ひましたところはお取除けになりまして、少しても御利益になると云ふことがありましたなら、何うかそれ丈けお聽取りを願ひたいと思ひます、

私はヂフテリーの話と云ふことを掲げて置きましたが、全體ヂフテリーと云ふものを今頃申上ることは既に遲くなつて居るので、以前ならば實に劍呑んな病であつたのでありますが、御承知の通りに血清が出來ましたので最早大切の病氣ではないやうになりました、併し血清は出來ても矢張之に罹る人が少なくなると云ふ譯には行きませんから、聊か御注意を促して置きたいと思ひます、其前に一寸傳染病と云ふ事に付て少しお話をして置きまして、それから本題の實扶的里の方に掛ろうと思ひます、傳染病と申しましても澤山ございますが、先づ大略申しますと人躰から一遍外に出ましてさうして再び人躰の中に這入つて來るのと、それから直接に傳染りますのと先づ二つに分けませう、そこで赤痢虎列剌などと申すものは直接には傳染らない、人間の身躰から一遍外に出ましてさうして再び成熟を致しまして人間の身躰に這入つて來る、直接に來るのは疱瘡ヂフテリー梅毒等であります、それで身躰から一遍外へ出まして再び這入ると云ふ方は豫防がしやすい、譬へば

虎列刺の如き排泄物から出て來た黴菌でも幼穉なるが爲め直ぐに傳染ることはない、其のことに付て西洋の人でまだ開けない時に虎列刺の排泄物を嘗めた人があるそれは直ぐに傳染るか傳染らないかの議論から、けれども傳染らなかつたと云ふ是は黴菌學の幼穉な時の話であります、然らば其毒は何處にどうして居るかと云ふに一遍躰外に出ると汚ない溝渠の中床の下など總て濕氣の多い處又は腐敗したる食物の中に這入つてそれが大きくなる、さうして再び人間の身躰に這入つて來て害を爲す、それですから傳染らないやうにするには清潔法を行ふのが專一であります、それて臺所の水棚などは殊に清潔にして置かなければなりませぬ、さうすれば先づ傳染ることが慥に少ない、そう言ふ事で清潔法を嚴ましく云ふ譯であります、所が直接に傳染ります方は中々そんな單簡な豫防法では行きませぬ、殊に一番怖ろしかつたのは痘瘡でございますが是は殆ど百年許り前に發明致しました彼の種痘法の（種痘ノ歷史ニ付テハ色々アリマスガ問題外故之ヲ略ス）行はれました爲めに今日では是に罹る者も殆どございませぬ實に結構なことでございます、チフテリーなども有難いことには今日では結構な發明が出來て助かるやうになりました、傳染病のことに付ましては先づ一寸それだけを申上げて置きまして本題のチフテリーのお話を致しませう、

チフテリーと申しますのは無論直接傳染病に屬しまして其種類が澤山ございますので啻に喉頭に來るの計りがチフテリーではない、諸器に來るのであります、併し左樣なことは專門家の研究に任かして置いて今日は喉頭のチフテリーに付てお話を致します積りです。昔はコロップとチフテリーとは別物としてあつた、それで內務省の布達にもコロップは傳染病ではないチフテリーは傳染病である、斯う云ふことになつて居つてコロップは屆出ることも要らなかつた、所が十年計り以前からコロップはチフテリーと同じもので矢張傳染すると云ふことになつて屆出る

ことになりましたが其以前は今申しました通り届け出なかつたものであります、それて醫者の中でもヂフテリーを捉まへてコロップ〳〵と云つて届をしない者が澤山あつて、ヂフテリーの統計なども取りませうと思ふても中々本統のとはわかりませんでしたなぜなれば田舎では眞實のヂフテリーをも面倒だから若し死んでも届は矢張コロップとしたもんですそれて豫防法なとが甚だ行き届きませんので隨分非常な流行を致しましたこともありましたが近來は兩方とも届けることになりました、なぜそれならコロップとヂフテリーを分けて今迄そう云ふことをやつて居つたかと云ふと、獨逸のウイリヒヨーと云ふ先生がコロップとヂフテリーとは違ふ、ヂフテリーと云ふものは殆ど喉頭に限局して義膜と云ふものが出來る、コロップはずッと奥の方に往つて大氣管から小氣管の方へ出來た一種待別なものであると云ふことを言はれたので、それて全く別物と心得て居つた、ウイリヒヨーの流れを汲んだ吾々に至るまで實際左樣に心得て居つたからコロップは届出るに及ばぬと思つて居りました、ウイリヒヨー先生の言ふのも噓てはない、病理解剖的に申しますと矢張違ふのであります、所がレフレルと云ふ人が此ヂフテリーの黴菌を發見してから、如何にも病理解剖的に違ふけれども矢張黴菌は同じものであると云ふことを申しまして以來、愈々同じものとして取扱ふやうになつたのであります、原因のことはそれで措きまして、實際此コロップやヂフテリーと申すものは實に危險極まる病氣でございまして、血清の出來ませぬ以前と申しますものは子供にあつては非常に難病て、丁度昔疱瘡は必ず一度は罹らなければ役目が濟まなかつた樣にヂフテリーに罹りません小兒は非常に恐れました若し一度罹らふもんなら疱瘡處ではない十人が十人死亡つたものであります、此病に罹ります素因と申しますものは小兒の年齡に因つて大變違ひがある計りてなく其病毒も年齡に因つて大に違ふのてあります、

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
と數字で題はしますと、一年の人は少ない、三年位の人が多くて四年五年六年七年位迄は非常に罹り易いのであります、八九十と年を取るに從つて罹るのが少ない、それで此病氣が丁度之と正比例を爲て、三四五六七位の年齡の者は罹ると大變に酷くつて斃れて仕舞ふことが澤山ある、それで此病はどう云ふ處に多く出來るかと云ふと咽頭喉頭扁桃腺など云ふ處に初めは出來る、而して初めの間は誠に分り惡いもので扁桃線炎と云ふ病がありますがそれと似て居りますので素人は勿論醫者でも見損ふ者が多い、それが段々後になると下の方に往つたり上の方に往つたりします上の方に往くと鼻腔を犯し鼻が全然つまつて仕舞ふことがあり下の方へ往くと段々大氣管の方に這入り夫れから氣管が双方の肺に分れて居る處がありますが其邊までも進んできます、而してひどくなれば義膜が出來る、それですから誰が見ても直ぐ分ります、なぜなら此が喉頭の方へ往くと一種特別のヒー〳〵と云ふ所謂ヂフテリー呼吸と云ふ一種の音を發するので素人でも能く分かる樣になります、けれども醫者でない方には診斷のことは別に必要もございませんから略しまして、私が今日お話を申さうと云ふのは此病氣に罹つたならば早く手當して手後れにならないやうにすることが尤も必要な事であります、實は私は誤解を致して居りました、此會のお方は何方もお子さん持ちの方で居らつしやるものと思つて居りましたが、參て見ますと子供のヂフテリーなどには別に關係の無い若いお方も居らつしやいますが、御若方でも追々お子さん持になられるのでありますからお心得の爲めに申上げて置きましても全く不必用でもありますまいかと心得ます、それで一寸初期の時の徵候を申しますと初めは少し熱が出る、或は頭痛がする咽喉が少し痛いと云ふ樣な是が始まりで何となく食事も進まない、大概は咽喉が痛いとか何とか申しますが中には全く何にも徵候がないものもある、そう云ふ場合に醫者に見せま

すと醫者の方でも中々一寸分り惡くいので全く見逃したり或は是は扁桃腺炎所謂「のどけ」であらうと言つて仕舞ふ事もある、又ヂフテリーでないものをヂフテリーと云へば兩親は驚いて、大變な病氣に附かれて仕舞つたと云つて怖れる、本統のものをヂフテリーでないと言つて三日も經つと本統のヂフテリーであると云ふことが分ると大に狼狽して今少し醫者の方でも十分見て呉れたらよかりしになど、孰ちから言つても醫者は惡るく云はれます、併し少し熟練した醫者であると其見分けは直ぐに附ますから何んでもそふ云ふ風の病氣に罹つたら矢張早やく醫者に見せるのが一番必要であります、然らば傳染るのはどんな風で傳染るのかと申しますと確に人間から直接人間に傳染ると云ふことは分つてをりますが、どう云ふ道を通つて傳染るかと云ふことに付てはまだ餘程研究の屆かない處があります、併し此ヂフテリーには必ず義膜と云ふものが出來ますから、其義膜が口の中に這入ると傳染するに相違ない、それで多く之に罹るのは醫者であるとか看護婦であるとかゞ多い樣です、それから一家の中で一人罹りますと云ふと其妹が罹る、弟も罹る、姉さんも罹ると云ふやうに傳染するのであります、それから直ちに其義膜が咽喉の中に這入りませんでも着物とか或は玩具と云ふやうな、種々の物に附着して居りますと傳染致します而已ならず近來家畜則ち鷄或は犢とかそう云ふものにも此ヂフテリーの樣な病氣があると云ふことが分りました、それで或はそんなものからも傳染するのであらうと云ふことです、凡て傳染病と申す者には潜伏期と申しまして傳染して直ぐには發しませぬ、此ヂフテリーも大概傳染りましてから二日目或は五日目位で發します、それで此病に罹つて斃れますのはどう云ふ工合かと申しますと例之ば喉頭の方に參ると呼吸をする道が其爲めに塞つて仕舞ひますので、是迄は呼吸をすれば酸素を取つて人間が活きて居りましたが其酸素を取ることも出來ないと、今度は窒素が交代することが出來ませんから窒素の

中毒で死ぬるものもある、或は咽喉邊に出來て呼吸は出來ても死ぬる者がある、それは多くは心臟痲痺であります、心臟痲痺はどうして來るかと云ふと其黴菌の業であります、黴菌は自分が其局處で害をする斗りでなく後で排泄物を出す、それが全身に廻ると其毒素の爲めに死ぬる、是は獨りヂフテリー斗りではございませぬ他の病氣にもそふ云ふのは澤山あります、所が幸に此病氣に付ては結構な血清が發明になつて先づ十人が十人迄助かる樣になりました、其發明になつた血清はどうして出來たかと云ふと、東京の大學に緒方正規と云ふ先生が居られます、其御方が始めて總ての病毒は一の動物から他の動物に種えると、其毒が段々減つて來て仕舞には無毒になる、免疫質になると云ふことを言ひ出されてそれを獨逸に報告を致しましたところが、其頃には有名な北里君が獨逸に居りました時代で、而白いことを言ふと云ふので夫から相弟子のベーリングと云ふ人と共に種々樣々に試驗して見ましたが其内北里君は年限が來たから歸朝されまして其跡でベーリングが血清を發明しました、其後は殆ど百人が百人此血清の御陰で助かると云ふ樣な結構なとになりました、此血清を用ゆる時期はと申すと先刻も申しました通り愈ヂフテリーであると云ふことの診斷を付けるのは多少閑が要りますから動ともすると其時期を失なつて仕舞ふ、又之を用ひまして何時間經つと利くかと申しますと廿四時間以內に利くと申すのですから之れを注射してから廿四時間活きられない樣な重症患者では誠に仕方がありませんから成るべく早い方が宜いのであります、併し血清を用ひませんでも間には自然に癒るものもあります、御心得の爲に申し上げて置きますが、自分の家に萬一ヂフテリー患者が出來ましたなら健康の人に豫防として血清を注射することが出來るのであります、是も長くは利きませんが一日や一日半は免疫質になつて居ることが出來ますから其内には患者も癒りますし大に安心な譯です、今少し經つたなら安く出來るか知れませんが

今では血清は直段が高いのでございまして、貧乏人などは一寸困りますが、人間一人助かると助からないとのことでございますからまあ金に構はずどん〳〵やりたいと思ひます、それから此血清の中にも強いのと弱いのがありまして、三通りに分れて居ります、血清一號二號三號とあります、一號は弱く三號は強く拵へてあります、價も從つて倍づゝになつて居ります、豫防に注すのは免疫單位の少ない、一號で宜いのです、患者には一回注射したのではまだ不安心のことがありますから、毎十二時間位に注す方が宜いのです、醫者の方で請求しましたならお拒みにならない樣にして治療するが宜しからうと思ひます、それからヂフテリーにも種類がございまして、**今の血清を注してもどうしても助からないことがあ**りますそれは混合傳染と申しまして、ヂフテリー黴菌の外に醸膿菌と云ふ黴菌がある、それと一緒に傳染ると急に重症になりまして大抵は死んで仕舞ひます、併し幸に斯う云ふものはヂフテリーの患者百人の中に二つか三つしかない、先づそう云ふのに罹つたら百年目と思はなければなりませぬ、それから出來る場所のことを申しますと咽頭の近所に參るのが一番多い、其外眼耳の中手などにも來ることもありますが、それは多くは咽頭の方にあつたのが指に付いて、眼を擦るとか耳をいじるとかして傳染るのであります、それから能く分りませぬが、ヂフテリーの癒えた後に多くの神經の麻痺譬へば該病を患つて一週間か十日も經つと物を飲み食ひすることが出來なくて飲食物が鼻から出ると云ふやうなことがある、それは咽喉の筋肉が麻痺をするのです、或は腕が麻痺するとか足が麻痺するとか種々樣々な處が麻痺する、それは多くは毒素の殘りて發するやうに思はれますが、**幸ひなことには此麻痺は**打棄てゝ置きましても自然と癒つて仕舞います、併し其中て一番怖ろしいのは心臟麻痺でありまして、心臟は一度麻痺しますと快くなる前に死んで仕舞ひます、其外色々の續發症があります假令ば肺炎を起す者もあります、

さう云ふ病氣になると別物でチフテリーの後てはありますけれども、それは單獨の病氣と見做さなければなりませぬ、先づチフテリーのことに付まして御注意迄に詰らぬことをお喋べりを致しました、前の演說が大變長うございましたから餘り長く申し上げましては却て御退屈て御ざいませうから是て御免を蒙ります」

▲食事の注意

或人は一定の食物を口腔に入れると之れを一定の度數丈け咀嚼すると云ふ習慣を有つて居つたものがありましたが、之れは結構には相違ありませんが常に勵行し難いものでありますす故に可成硬いものでも充分軟くなるまで咀嚼するのト今一つは餘り急いて食事をしないようにする習慣を小兒の時より養成せしめ置くとが必要てあります餘り軟いものだの餘り濕つたもの計り食して居ない樣にするのてあります

寄書

●醫學に於ける糞尿の應用

竹中成憲君

『雪道は誠に油斷ならぬなりアチラコチラに糞や小便』、『雪道に糞や小便、不思議なし、糞の場所をば「雪隱」とぞいう』、茶人の庭先にても『初雪や砂糖積に似たり犬の糞』

是我國に於ける情態なり支那、朝鮮ときたならば雪なき時も尙此通、ロンドンは石炭の煙の爲めに市中黑く支那は糞便の爲めに空氣黃色なり故に西洋の語に『英國の黑風、支那の黃風』といへり朝鮮にては小兒の糞は悉く皆、犬之を嘗め大人のものは豕之を食すと聞ては吾人の數等彼等の上位に在る事明なり文明人及び不潔の各人種が此汚物を診斷又は治療其

他の目的に使用せるの事實は豈興味なしとせむ乎先づ

▲小便の味

を知らざるべからず小便は少しく鹹からきものなるが糖尿病と稱する病に在ては其味甘くなるものとす何となれば該病に在ては砂糖を小便中に混ずる事となるがゆゑなり原因は蓋し一にして足らず或は腦病より來る事あり或は膵(すい)と稱する臟器の官能(はたらき)を失ふに因て來る事あり或は甘食多量の事あり

醫者は患者を診し本病の疑ありと思ふときは小便中に一定の藥品を入れ小便を煑て砂糖の有無を定む然れども予に輕便法あり

▲尿中の砂糖を識る法

としては患者をして己の尿を酒杯に採らしめ之を舐めしむ可し甘味あらば含糖の證、此法は予の考案なりしが後ち書見中英國の醫トーマス、ウイルリス氏(元和八年生れ延寶三年に死せし人今を去ると二百三十餘年前)の既に本法を實用せることを記せり子が父の爲めに尿を舐る位のことは易きことなり、

此病氣は恐ろしく咽乾き(煩渇)小便多量に出づるものなるが愈々此病氣と分りたれば養生法面倒なり。即ち米を禁ぜざるべからず故に日本人にして本病を發するときは大變なりとす。

患者は所謂洋食を爲さざるべからず故に、貧者は到底費用に堪へず金ある者は急に洋行を思ひ立つものあり、食を改め得ると同時に死する前に西洋を見て來るも一興ならん予在學中故鐵腸末廣重恭先生本病に罹りて來院せり氏の『啞の旅行』は即ち氏の洋行土産なり。

要するに左のものを食すべからず。

●●「禁物」　米、芋、豆、菓子、砂糖、温飩、蕎麥、パン、ビール、蕪、餅、甘き果物、百合等。

●●●俗人には地より生ずる者を禁ずと說明すべし。

「可食物」　鷄卵、牛肉、鳥獸肉、魚、牡蠣、豆腐、味噌海草、大根(少々)、菜(青物)、脂肪(肝油)、小豆(あ

づき）は殆んど害なし、牛乳少量良し。
夜間度々小便に起る人は腎の診を乞ふを良とす早く發見せざれば本病の結果盲人ともなり肺病ともなりつまり死せざるべからざればなり。

▲滋養品としての尿

朝鮮國貴族は特に小兒を養ひ其小兒の尿を吞むで藥なりと爲す。（又室内を尿を以て拭ふといふ）

▲論文材料

ドクトル、ウエーザルと氏は己の卒業論文をして完然ならしめむが爲め人糞を舐めたりと記せり。

▲糞の罨法

侍醫バウリニ氏（正德二年死す）は人糞を以て罨法を施し今尚ほ歐州の偏田舍に民間之を實行するものあり現にバース氏（恩師ベルツ氏郷里附近の人）一回目擊せりと氏の診斷學に記す。

▲診斷材料としての糞

晉書孝友傳に南齊の庾黔婁なる人某縣に知事となりしが赴任早々父疾に遭ふ婁忽ち心驚き身を擧て汗を流し即日、官を棄てゝ家に歸る家人悉々く其忽ち到りたるに驚きたり此時醫の云く父の病の差劇を知らんと欲せば但だ糞の甜苦を嘗めよと黔婁輙ち糞を取りて之を嘗む味轉々甜なり心愈々憂苦し夕に至れば每に北辰に稽顙し身を以て代らんと求たり云々。

▲捕虜の放免

「字彙」に據れば「惡」の音「ヲ」となりて「醜也又糞穢也」とあり例として左の句あり。

越王勾踐爲二呉王一嘗レ惡

一說に勾踐虜捕となり呉王、偶々腫物を病み勾踐、王の爲めに其膿を吸ひ王、治するに及び宥されて歸るといふ。糞の方正しといふ。
兎に角不淨物を口にしたるは事實なり本邦に於て立腹するとき「糞を喰ひ」といふもの蓋し此邊に歸因する乎。（以下次號）



大家談叢（其二）

●尤も恐るべき肺ペスト

（市立駒込病院長宮本叔氏談）

▲肺ペスト　腺ペストと雖も素より恐ろしいものであるが此肺ペストといふのは一層恐ろしいもので、傳染は直ちに肺を侵すのである、從つて患者の身體や衣服などを何程消毒しても腺ペストのやうに傳染を防ぐ譯には行かない、まるで結核菌の患者の咳などをする時に其飛沫に混つて飛亂するやうに肺ペストの黴菌も患者の咳などから空中に飛散して傳染する虞がある、腺ペストであると注意の如何によつて人間から人間に傳染する事は殆んどないやうにする事も出來るが肺ペストであると夫れは到底六ケ敷い、從つて肺ペストは腺ペストよりも一層恐るべき性質のものに相違ない、尤も腺ペストでも菌黴が全身にひろがると續發性に肺を侵して肺ペストと同じやうな結果になる事もある然し通常は腺ペストといへば肺を侵されるまでもなく斃れて了ふのである、以上はペストの種類であるが外に皮膚ペストといつて特別のものがあるといふ說については猶疑問となつて居るといふ事は前述べた通りである、夫れから此恐るべき傳染病に對する

▲個人衛生　としては先づ成るべく發生地附近に立ち入らぬ事、夫れから皮膚を注意する事、身體被服等の清潔を保つ事、沐浴は最も適當な清潔法である、もし已むを得ずして患者の身體とか不潔の器物とかに接觸しなければならぬ場合には手などにもワゼリンのやうな油を塗るがよい、すると眼に見えぬやうな小さな疵は油に掩はれて病菌の侵入する事が出來ないやうになる、夫れから成るべく感冒などに罹らぬやうに注意するも肝要である、夫れから

▲ペスト菌の繁殖　する次第をいふと菌が腺を侵せば此黴菌は夫れ自身に毒を有つて居るものであつて、其毒が漸次心臟を侵し、神經を侵し、脉が急になるとか熱が出るとかいふ風になつて精神朦朧とし

て遂に毒の爲めに斃れる事になる、夫れて

▲ペスト患者の證候をば極めて平易に云つて見れば、病毒即ち黴菌が身體を侵してから病の起るまての時を第一期として之れを潜伏期といふ、此間が短いのは二日長いのは七日位てある、此期間を過ぎると急激にやつて來る、先づ腺が痛んて、此處が腫れ上つて手て押すと痛む、惡寒を感ずる、頭痛がする、熱が非常に高くなつて、身體中が倦厭を感じてダルクなる、顔が赤くなつて、眼が腫れて、脉搏は云ふまでもなく急になる、或る場合には腺が痛むばかりて半日か一日か過ごしてから急に來る例もある、青山、石神兩君の例によると、青山博士は六月二十六日目に屍體の解剖をやつて居つて午前十時頃に氣分が惡くて腋下腺が痛むといふやうな證候があつたが其日は平生の如く仕事をやり、夕方から一層惡くなつて、夜の八時頃には體温が三十九度五分に上つたのてす、之れに反して石神君は晝のうちには何の感もなく、同夜の十一時頃に腋下腺が痛むといふ事て體温を檢すると三十八度五分になつて居つたのてす、要するに一日か半日の前兆がある場合もあり何もなくて急に來る場合もあるのてす。

▲注意すべき證候　素人には確かな所は解らう筈はないが、最も注意すべきは、腺が痛んて腫れ上るやうな事がある時てある、而して熱が高くなつて脉が急て、普通の熱とは違つて精神が早く朦朧となつたやうな場合にはペストの疑ひあるのてある、尤も割合に精神の分明な間の永い例もないてはありませぬが、短急に重症に見ゆるのがこの病の特徴てある、其の甚だしいのは電撃性と稱して二十四時間内に死んて了ふのもある、普通は三日か四日位に斃れる、七日以上保つものは大抵治癒するやうてある、次ぎは

▲豫防法　てある、個人の注意としては前述の通りてあるが、一般の豫防について云へば、是れには一國の豫防と、内地へ入つて來てからの豫防とある

▲國としてのペスト豫防法　は云ふ迄もなく日本の

やうな島國では海港豫防を嚴にする事である、ペスト流行地から來る所の船舶に對して嚴密なる規定を設けて病毒輸入の災を防がねばならぬ、我が邦にも海港檢疫法同施行規則に依りて充分の豫防を行つて居る筈でありますが、何分にも其實際を見ると、十分中の三分も檢疫の目的を達して居らぬと云はねばなりませぬ、夫れに棧橋に船が直かに着くやうになつて、危險は一層甚だしいのです、一定の停船期間を經過して患者をも出さなかつたからといつて、全く病毒の潜んで居らぬものとは云へぬ、船中には鼠も居る、此鼠が少しでも病毒を持つて居つた場合に船から陸へ上るやうな事になれば甚だ危險である、夫れで香港邊で行はれてをる方法は船から夜の中に鼠が上陸するのを防ぐやうに船を繫なぐ綱の途中へ漏斗のやうなものをつける、もし陸地が流行地で船が健全の場合には陸から鼠が船に入らぬやうに其漏斗をば此方向きにつけて置く、之れは至極容易の事であつて且つ大に効果もある譯であるから、流行地を通過して來た船舶などには義務として其漏斗をつけさせるやうにしたら好からうと思ふ、夫れから

▲國內の豫防法　としては先づ清潔法を行つて鼠狩をするのが第一である、夫れも成るべく大きな範圍を限つて、全然交通を遮斷して其內の鼠は外へ出る事は出來ぬやうにして、其鼠を殲滅させねばならぬ、ペスト菌といふものは案外よく一區域內で殲滅し盡せるといふ事は香港の例でも證據立てられて居る、香港では太平山といふ支那人街の隨分不潔な場所を煉瓦で區切つて其中をば嚴しく消毒したので病毒は全く其以外に出ずに了ひました、尤も夫れは幾分か家屋の構造も與つて力のあつた事と思ひます日本のやうな木造の家屋では或はさううまくは行かぬかも知れぬが、成るべく廣ろく區域をとつて嚴重にやつたならば目的を達せぬ事もありますまい、若し姑息の手段で少しづつやつて行くといふやうな事であると、病毒は益々傳播する恐れがある、已むを得ねば或る範圍內の家屋を取毀して燒捨る事も必要になる

のです、兎に角姑息の處置をとつて時日を經過せしむるのは最も恐るべき事であります、何にせよ此病に罹れば大概死ぬと諦めねばならぬ位のもので香港でも支那人の患者二千六百十九人のうち二千四百四十七人は死んで了つたのですから、病人の出ぬうち、即ち鼠のみの病で居る時分に充分果斷の處置に出る必要があるのです、夫れから一寸注意までに申して置きたいのは、あの齒のついた鼠とりです、あれは危險だから用ゐぬ方がよい、病毒のある鼠をあれで殺すと毒を傳播する虞がある、夫れをブラ下げて歩き廻るなどは殊に危險です、夫れから最も緊要なるは

▲完全なる避病院　を建設する事です、東京では目下本所の病院がペスト患者を收容する所になつて居りますが、如何にも構造が不完全で北風などが遠慮もなく吹き込んで、病院へ來て却つて風邪をひくものが多いのです患者にも氣の毒の次第であるし市の面目にも關する譯でありますから、成るべく至急に完全の病院が欲しいのです、駒込の方は立派に出來ましたがあすこはペスト患者は入れない事になつて居る病院から病毒が傳播するといふやうな事は絕對にないといつて差支ない位であるからペストの病院が出來たといつて其近所では何も左程恐れるにも及ばぬ事であります、此點に就ては市民にも充分に安心して居て貰ひたいのです

（完）



●夏期病人多き原因

左の談話は中濱醫學博士の談話を一寸とつまんで一口話しに直して記しましたのですから隔靴搔痒の嘆を免れません讀者其心して！

▲消化機の誤解　素人の誤解されて居るものは夏になれば消化機が自然に衰弱する樣に考へて居るのは間違へで夏期に入り消化機病を起すのは腐敗し易い食物から來るので夏は分けて急性の吐瀉を催すことの多いのは何よりの證據ではないか

▲中毒症狀　腐敗した食物の中毒は何の位ひの程度が尤も恐ろしいかと云へば腐敗食物の初期程毒力の猛烈なものであることを忘れてはならぬサレバまだ此位なれば差支なしなど云ふて食することは尤も危險と云はねばならぬと記者之を添ふ

▲鯛の生腐り　喰味とか臭味とか物の色などが變化して居れば一見腐敗物と云ふことがよくわかるが其特徴のない例へば鯛の生腐りの如きに至りては何人も見分けすることがむづかしい魚類は殊に腐敗し易いものであるから充分に注意せねばならぬ此毒は一種の猛惡なる（プトマイン毒）てモルヒネ、ストリキネーアトロヒネの如き大毒藥も同一の作用を起すことは知らば誰人も驚かるゝてあろう

▲蒲鉾の中毒　蒲鉾、半片、竹輪の類は腐敗の初期になつていることが素人には一寸と分らぬが夏季は此等の物に中毒られた人は澤山見受けますから夏は斯う云ふ食べ物は成るべく遠ざける樣に仕たいものてす

▲牛肉の變敗　一體牛肉は屠りたては硬いものであるから少し程を經て食用にするソウすると丁度食べ頃になる此時は勿論差支へないが此時季を經過しますとコンドは變敗の時期に達するのであるから此邊はこく心得置かれたい

▲腐敗と辨當　辨當をもつて通ふ人は小見から大人に至るまでドの位の數だか知れぬが夏になると辨當をたべてから俄かに腹痛を起すものあることは屢々見聞する處てす是れば辨當の腐敗から起るので辨當は朝炊きたての飯は充分に冷やし然る後腐敗し難い藥を選ばねばならぬ然るに實行は中々むづかしい夏はつい夜ふかしをして朝になるとつい寢ボウをして大急ぎてする事が度々あるから從ッて飯の熱いのを充分冷やす時間もなくよい加減にして「サア御持ちなさい」と云ッて持たしてやるソウすると腐敗するとが往々あるされば夏の辨當の菜は佃煮とか湯て玉子の類を選び左もなくば食パンを二ッに割り「ジャム」か「バタ」を充分塗つたのを持たしてやる方が

よい子供ては厭きか來るが粗惡の辨當より遙かによい魚類の菜や鮓などはよくない

▲鮓の辨當の爲めに　五六十人の中毒と十人餘の死亡者を出した實例がある故に酢は夏の適當なる食物てない事も想像されるてあらう

▲夏の病氣は多く口から起る　第一には飲料水の注意て東京の如く水道の敷設された所ては「水道の水は安全だ」と熱いときや渴を覺へたときは水道栓をひねつてガブ／＼飲む者が多いが此水道とても暴雨の時などは濁り勝ちてある斯る不完全のある以上は決して信を措くことは出來ぬ爲めに胃腸をいため下痢するものが何れ程あるか知れますまい殊に尤も寒心すべきは小學校て從來麥湯など與へたものが幼年な子供に勝手に水道の水を飲ませる學校があるそうてあるが是れは父兄の方もよろしく御協議せられて改良されたい

▲氷と天麩羅と梨子　小供には氷水は與へぬようになさい熱い思ひをして急に氷水を飲むのは極端から極端て何の位胃腸を害するか知れぬ又脂肪に富んだ天麩羅、豚、などは見合はす樣にしたい又新鮮な果物ても小兒や老人には煮て與へるやうになさい西洋ては林檎や梨子は煮なければ食用にせぬものと心得て居る位ひて又桃も砂糖漬けにせねば生まの儘ては食べない然るに日本ては平然として「食べ過るとお腹を痛めますよ」位の小言に止まつて居る樣親達は隨分澤山あろうと思ふ

▲牛乳　夏は誰も腐敗し易きを知る又結核の恐れもあるから一旦煮沸したものを用ゐることは勿論てあるが

處ろが煮立てた牛乳は成分が變化して營養が惡くなり不消化を起す故牛乳一方て哺育する生兒に是れ許り飲ませると一種の疾病を起し衰弱性に陷り藥力にては到底恢復することの出來ぬ樣になことがある斯る場合には斷然煮沸の牛乳を廢し危險の憂のなき良生乳を與ふるようにすれば藥力によらずとも次第に衰弱を恢復し元の健康に復するものである煮沸

の牛乳には斯かる危險が伴はるゝものである

▲寢小便の新注射法

寢小便の爲めに難義して居るものは世間實に少からぬことですが是迄は右に對する療法とてはキマツて居んで難治の病としてありましたが朝倉博士の談を一寸書きつまんで記さんに

最近佛國の醫家カテラン氏に依ッて發明され氏の脊髓硬膜周圍組織内注射は其効驗の顯著なものであつて此注射によつて全治されたものは隨分多いが駿河臺の朝倉博士には此注射法の媒介者として現に實行されつゝありといふ

▲保養の注意　寢小便が一種の病氣となつたなら直ぐと醫者にかゝつて療治を受けねばならぬ保養上の注意としては刺戟性の飲食物即ち酒類、唐辛、胡椒、一般に鹽辛き物等を禁じ午後からは水及梅李、林檎の如く多量に水を含むものは勿論其他梨子蜜柑などの飲食をひかへ就中就寢前には右の飲食を一般嚴重に差し止める必要がある寢小便する小供の親達は兎もすると一夜に三回も四回も起して排尿させるがあれは非常に害をなすことで夜分は一回呼び覺して小便させる外其他は決して起しはならぬ且其産母に小言を言ひ手荒らなことをしては迚も寢ることがない

▲寢具の注意　夜具は餘り温暖かでない方がよい蒲團などは何れかと云ふと堅い方が好い位でかいまきは成丈け輕きものを撰び敷き蒲團は平にせずに足の方を高くすることよろし

▲精神の過勞　遺尿症はいろ〳〵の原因から起つて來るが身體の發育が不充分であるに學問させ精神を過勞させるより起るもある此病のある小供はあまり勉强させずに庭園なり何處なり閑靜なところを散歩させる位に氣を付けてやるが肝要です

▲醫師の撰擇　カテラン氏の注射は消毒が大事てあるとのことであるから醫師の撰び方も忽にしてはならぬとのことである

午睡は惡い習慣

▲醫學博士大澤謙二氏の談話摘要を記さんにナポレオンやフレデリック大王は一日に五時間しか眠らなかつたさうだがこれは希代の豪傑のすることで吾〳〵凡人は普通大人は七八時間となつて居る而して一旦斯うきまつたなら春夏秋冬常に之を守つて規則を破らないやうにするのだ暑中だからと云つて午睡すると云ふ法は決してないことである老爺さん婆さんになつて來ると精神體力共に弱つて來るから朝から夜まで起きつゞけ難義になつて來るからつい一休みと云ふことで晝寢になる晝寢をするから夜眠られないと云ふ順番に變つて行くのだ

勞働者は一寸と一と晝睡してから仕事にかゝる方がよいなどゝ理窟をつける人もあるが之れは一の習慣て必要から起つたのでない晝は起きて働き夜は寢て休むと云ふのは一般の好習慣であるのに其間に午睡などゝ稱する厄介者を作るの及ばぬことゝて現時に於ける砲兵工廠職工の精勵なることを例證し要するに午睡は至つて惡るい習慣であつて衛生上からすると多少の副害こそあれ別に寸効ないとであるからこれは斷然改めるやうにしたい

▲晝飯後の安息　これは非常に大切なことで一體血液は能く働き能く使ふ方に集中るから手足を働かせると手足に、腦髓を使ふと腦髓に盛に集るのだ、右の次第て飲食する時の血液は主として胃腑に集つて來て腦髓の方に減少て居るから、そんな時に書物を見たり仕事にかゝつてもなか〳〵はつきりとなつて來ないものだ、昔から「食過ぎて懈怠起る」と云ひ、羅甸語の中にも「充ちたる腹は仕事を許るさず」とても釋す可き句があるが、よし食ひ過ぎぬまでにも、食後は一ト休息して安靜を保ち、夫れから學問なり勞働なりに取掛るが衛生に適つた仕打ちと云つてよろしからうと云々



●會員寄書

新潟賛成員　本山捨五郎君

▲夏季個人の衛生に就て

夏季炎熱の際は飲食物の腐敗し易きものなれば成るべく其都度家内にて食べ切れる程の見込にて調理し若し餘りたるときは完全なる覆蓋をなし蠅其他昆虫の集まらざる様注意し少したりとも腐敗の恐れあると認めなば決して食ふべからず又宵越しものは夏期何なりとも注意して用ゐざるを安全なりとす

暴飲や、暴食、不消化物及不良の生水などは胃腸を害し疾病の誘因なれば殊に小兒には充分の注意を要す

米飯とても炊き方硬きものに生玉子や御汁醤油など掛けて食するときは口中に於ける咀嚼不充分にて胃中に送り込み勝ちなれば消化容易ならずして爲に胃腸に加答兒性疾病を起すこと少からず胃の弱き人又は小兒には此等には御注意あらんことを望みます

飲用水は完全なる井戸水なれば生水にて用ふるも可なれども完全なるものとては分析上極めて少なきものなれば煮沸して用ゐるを安全なりとす殊に粗質又は川水などは尤も危險なるものとす川水の如き若し上流の町村に於て傳染病流行の場合には何時如何なる病毒が河川中に含有され居るやも圖られず危險此上もなきことなればなり

旅行又は散歩等にて山間を跋渉の途次岩石などの間より玲瓏たる冷水の湧出するを見ば誰しも此水を呑まんと思ふことありと云へとも總じて身體の熱したるとき冷水等を飲み急劇の變化を爲すは衛生上宜しからず寶丹等入れて飲むは入れぬに勝るも先づ此等の水は成るべく飲用せざるをよしとす

身體は屢々沐浴し常に清潔ならしめ勞働、運動、歩行等のため多量に發汗したるときは手拭の類を水に浸しよく絞りて汗を拭ふと同時に皮膚の赤くなる程に摩擦し（但し皮膚をスリむかぬ様）全身殊に脊部、腋窩、股間等は丁寧に摩拭し拭布は數度清水に浸し絞り替ふべし右終りて後清潔なる衣服と着替へてよ

し是れ體溫を調節して効ありと知らるべし

一居室は常に清潔に掃除し且風雨天の外は毎朝窓や戸を開き新鮮の空氣を流通せしむべし

一夜具、蒲團、敷物等は屢々日光にさらし濕氣を去るべし日光は諸種の病菌を死滅せしむる効力あれば日中四時間以上日光に曝すときは尤も有効なりとす

一衣服は屢々洗濯を行ひ常に清潔なすことは勿論なり誰人も知らるゝ如く木綿の如きは皮膚に密接するには絹物よりも衛生上極めて有効なるものなれば夏時の襯衣には木綿を採用し要は清潔なるを貴ぶ以上は夏時の衛生として誰人も恰んど熟知せらるゝ處なるが蓋し言ふことは易く行ふことは實に難きものなれば人々の御注意までに

質問　長野　一會員　t．S．

問　當年五歲の女兒至極健全にて元氣よく活潑なる子供に候へ共二歲位の頃より隔月位に延びる癖あり其際には身體も瘦せ申候先づ仰臥して下腹部の所に手を延ばし足も出來得る限り延ばし息を切り顔を赤くして延び居り申候かゝる時には如何に日頃好み候ものを遣はし候ても見むきもせず終日延び通しにて遂には延び寢入りに眠り申候地方の醫師に診斷を乞ひ候へども所謂カンの爲とのみで要領を得ず候が如何なる原因より來り如何に治療して宜しきにや右一寸御敎示下されたくねがひあげたてまつり候

答　研究の價へありそうな御病症と思はれますが迚も御手紙丈けでは要領を得ません御出京になり專門科の診察を受けられたし或は輕き癲癇症かとも思はれます

質問者　會員　酒井はま子

問　水藥を水に漬け置くときは夏期にありては水の溫度忽ちにして高まり却ッて腐敗の恐れありて利益なき事ゝ先日の御講話に伺ひ候が斯くては屢々水を取りかへるに忙しく困難に候へどもかくせざれば利益なき事に候や伺上候

答　若し氷室があれば氷室に貯ふるを最上とします氷室がありませぬなら井戸の中へ（ザル）にて吊り下げ置くをよしとす又涼しき房室も可なり冷水に冷やすことの可否は程度問題にて極めて頻々に冷水を交換することを得れば勿論利益あり然れ共冷水に入れ放置するときは却つて腐敗を催進すべし又藥劑により容易に腐敗するものあり斯の如きものは貯藏法に注意すへきよりも醫師に其旨を言ひて或は一日分或は半日分宛其都度少量を貰い受くるを可とす

質問者　本鄕特別會員

問　百日咳患者の療法としては轉地療法極めて効能ありと承りしが如何のものや伺上候

答　百日咳は種々の療法によるも中々治療し難いものでありますが醫師が轉地療養を勸むることが漸く世上に擴がり來りました尤も此轉地療養が百日咳に効力あると云ふことは確しかな事でありますがさりとて毎回必らず有効と云ふことも出來ません時に依りては却つて有害なこともあります殊に六七ケ月以下の小さき小兒には甚だ危險多いのです又病ひの狀態により他に合併症ある時も轉地療養の却つて不良なることがあります故に此轉地療養を勸められたるときは必らず熟考の上然るべき專門の名醫に相談せらるゝを尤も安全とします

質問者　札幌一會員

問　うるしにかぶれた時にはどんな手當を致しましたらよろしう御座いますか御敎示を願ひます

答　成るべく皮膚を刺戟せざる樣注意し假令へ痒ゆくも餘り掻きこわさぬ樣になし塗り藥には一ポロセントの水楊酸アルコールなど試みらるべし

質問者　一　會　員

問　私こと顏にそばかす出來まことにみにくゝ候まゝもしよき方法も候はゞ御おしへ玉はり度ねがい上候前に御たづねにあづかりし白帶下はこれなく候

答　そばかすを除く法は有之候へども度々本誌に

も御解答申上げる通り御顔などにも自然劇藥を用ゐねばなりませぬから中々六ツケ敷く御素人の御療治には參りません殊に適當なる專門醫の監督の下に行はれざれば却つて顔面の皮膚を醜くゝする事があります醫科大學皮膚科あたりにて治療を受けらるゝことを御勸めします

問　　質問者　本郷一會員　S.

一昨年産后以來折々眼かすみ或は歯痛み色々治療致し候も時々發起し目下姙娠五ヶ月なれど又々眼病にて困り居り候尤も湯上りなどにてはよく相見へ候へども少時間經れば又々うるさく相成候原因及療治御敎へ被下度願上候也

答　多分貧血のために起らるゝやも知れず要するに姙娠との關係から來たものでしやう若し貧血から來たものとすれば輕量の葡萄酒を日々食後に飲用せられ滋養物を取られ鹽湯など又効力あらんそれでなほらねば專門醫に

問　　東京　八王子　一會員

一、常に身體健やかに候へども折々肩脊はりいたみ又頭痛いたし候もの灸をすうるは如何のものに候や又灸は身體の爲めに宜しきや否や

二、わきがは注射にてなほす方ありと聞き候へどもそれにて全治いたすものにや又他病に變ず恐れはあるまじきや御敎示被下度候御序に多病に變せぬ樣根治なし得る醫師御敎へ被下度願上候

答　灸のことは此前本誌に出したこともありますがあまり賞用は致しません夫れよりは寧ろ按摩の方が適當ですマッアサージーなどもよいでしやう
腋臭は專門醫に御たのみになつて注射を受けることは差支ありません御出京になつて大學の皮膚科の診察を受けられるが適當とぞんじます臭氣を止めるはザルチル酸などよし
序に長野一會員の方に申上げますが結節狀裂毛症

に就て寺田先生の御話しにより御質問の頭髮に毛虱の樣にボツ〱とてきて困り居らるゝとの事是れは嘗て本誌の講話にありし土肥博士近くは寺田學士の所說を御熟讀になり矢張り專門の醫師に就き治療を受けらるべし或は御出京の上大學にて診察を受けられては如何

質問者　群馬縣一會員

問　私事手の爪外にそり誠に困り候如何致せば治るものに候や尚又心臟病にて困り候人有之候へば之れも同上候

答　手の爪の外にそるとは如何なる有樣にや拜見せねばよくわかりませぬが爪が餘り多く生へたら剪刀てよく切り去り跡を「トクサ」にて擦りましたならば恰好もよくなり又ジヤマにもなりますまい之れは天性即生れつきてあるとすれば先づ以上の手當より外に致し方はありますまい又心臟病に就ての心得は多くの方々から前に澤山御質問になりまして御答へを致したとがありますからよく前の本誌を御覽下さいまし

質問者　巢鴨　久寸能留宇子

問　長年の間右の咽喉が焮腫の氣味ありまして長談高聲には必らず痛みを起します然し食事なぞには一向差支ありません諸先生の診察には慢性咽喉カタルだと仰せられますがドーもなをらんで困難いたして居りますが宜しき療法あらば御敎示を願たい

答　總べて慢性と云ふ冠詞の付く病氣は永くかゝらねば治りません併し御病症は咽喉カタルばかりて外に身體に異狀はありませぬか或は夜分寢あせをかくとか熱か出るとか云ふ樣に是等のことがなしとすれば食事の度每氣を付けて含嗽を次の藥りて永き間御試みなさいまし其藥は別に不思義なものてはありません併し素人のツマラヌ藥と思ふものが中々醫者には大切なもので即ち病氣に効能があるのですから馬鹿にしないで御用ゐなさいソレは「燒明礬」の少量を水に交せ（口が少しシマル位の度となし）一

回に一合乃至二合位の水で含嗽を續け賜へ又は硼酸を水に溶いたる硼酸水鹽を水に溶かした食鹽水もよし鹽酸加里水もよけれど（コレハ素人には賣りませんし又是れは前の藥りよりはつかい方も大に加減せねばなりませぬから又は醫者の命によるとする方よろしからん）何れも倦きずに永く持續して行はねば効能がありません

質問者　群馬縣　宮崎松枝子

問　宅の小供當年七歳の男子四歳の時強く風引き百日咳にて廿日間程病氣致し全快後時々夜分睡眠中咳出て日中は餘り咳は出てず時に一二度出る事もあり又走りごとなど致し胸の苦るしき時には少々出て候併し身體は極て健全らしく食事其他に變りし處少しもなく候へとも只夜中の咳は誠に苦しき樣なるが（但毎夜にはあらざるも其多く出るときは日中に身體を冷やしたると時と存せられ候引續き二ケ年餘になり其内昨年春末二ケ月間程全快致し居候處夏の初に水中に入り身體を冷やし候事あつて又咳始まり以前全樣と相成申候（兩親には肺病の血統なし本人咳の爲め少しも痰は出てず）右は如何なる次第に候や豫防注意等伺上候

答　是れは百日咳を御わずらいになつたとき（御承知の如く百日咳のセキ込んで來るときは顔を赤くして非常に苦るしき咳嗽をするもので傍て見るのも痛わしい位いて是れが爲め氣管を痛めることは甚だしい）氣管を御痛めになツて其後ソレがよく全快して居らず時々御說の如き咳をする樣なのではありますまいかと思ひますサレバ此御病氣は矢張り慢性の氣管支カタルになつて居りはしませぬが肋膜病のあるものとか又は肋膜をわずらつて手術したものなどの跡で仰せの樣な咳嗽をすることがありますコレハ矢張り慢性の氣管支加答兒が多い要するに御兒さんは餘り御丈夫の方とも想像されませんから充分滋養物を與へられて遊戲總てに注意せられ咳の出るときなどは吸入器（食鹽水を入れ）で吸入をさせること尤もよし又夜分濕布繃帶を胸部に施すもよし（併し濕布の上には油紙など載せ身體の濕らぬ樣になさるべし助膜などに關係がなければ別に御心配もありますまいが小さい時に早く根治せぬといけません

質問者　札幌一會員

問　石炭瓦斯及コークス粉末は木炭末と同様惡息瓦斯を吸收する效あるものに候や又滿一ヶ年になりたる小兒此頃まらりやに罹り醫師の診察を受けた處昨年蚊にさゝれ傳染して病毒潛伏し居り此度發せしものなりと申され候尤も昨年さゝれしあと久しく腫れ居りしとか承り候かゝる事は常に有之候や御伺ひ申上候

答　石炭瓦斯及コークス粉末は木炭末の様に惡息瓦斯を吸收する効なし。マラリヤに就ての答　コレハ醫師の言はるゝ通りマラリヤ毒を持ち居る蚊にさゝれて起りたるものに相違ありません併し昨年さゝれたとか其跡が何處だとか云ふことは今は穿鑿の必要はない多分今年右の蚊にさゝれたものでしやう併し冬でも蚊は居りますからイツ螫されたのが分るものでないソレは偖て置き素人方でもマラリヤ毒を持ち居る蚊の種類を知り置くことは時節柄にも必要ですから今北里博士最近の所説をかりて御參考に供しましやう

▲蚊の注意　北里醫學博士曰く東京では山の手の高燥な場所にはマラリア熱を媒介するアノフエレスと云ふ獰惡な蚊は居ない普通何處にも居て人を襲ふクーレックスと云ふ蚊ばかりだが下谷本所深川邊には恐るべきアノフエレスと云ふ蚊が發生して居るゆゑ夏になると蚊位の者をと油斷してはならぬ夫々撲滅驅除の方法を講じないと臍を噬むやうな事が出來るからと注意を與へられた

▲普通の蚊とマラリア蚊の別　扨マラリア熱を傳播するアノフエレスと云ふ蚊と普通のクーレックスと云ふ蚊とは一見何ういふ違ひがあるかをお咄し致さう、普通の蚊は翅に鱗片はあるけれど特別な斑點のあるものは甚はだ稀である、又其の普通一般の習慣として壁などに止まる時を能く御覧なさい必ず其の體を壁の面と並行し尾端の方を持上げて居たり體を斜に止つて居るのは極めて稀である、然るに恐るべきアノフエレスと稱する蚊は第一翅に斑點があつて體を見ると一樣に黒褐色で一見獰猛の惡相を顯はし

て居る第二に壁などに止つた處を見るに腹部を斜に持上げて普通の蚊のやうに壁の面と並行して居る事は無い是等の特徴によつて注意して見ると容易に此種の區別が出來る

▲面白きはなし　アノフエレスはマラリアと關係のある處から一名マラリア蚊と呼ばれますが此の蚊ばかりではなく有らゆる蚊に就て各方面から研究された傳染病研究所技師宮島幹之助氏の談話はナカ〳〵面白い未だ蚊にならぬ孑孑の時に之れを撲滅したら宜からうと云ので或る天水桶の孑孑を藥品で悉く殺して仕舞つたそうだ、スルト其後天水桶の水は段段腐つて惡臭を放つて來たのです、併し此水は藥品て腐敗したのではなく孑孑の生存した頃には水中のバクテリアを食物として居つたから全く水が腐敗しなかつたのである又た同一の卵塊から發生した蚊でも初めの日に生れ出たのは蚊の雌で二日目も雄が多い雌の蚊は三日目から多く顯はれ出るのであるソコて蚊の雌雄を簡易に見別けるには體が瘠せて頭に絮の如きものを戴くのは雄です、體が肥へて絮のないのは雌と定つて居るのだ

▲蚊毒の免疫　蚊が人を刺して血を吸ふときには先づ毒線から毒液を注射して血の吸ひ良きやうにするが遂には蚊毒免疫を得る事になる、夫れは度々蚊に刺されると次第に蚊毒に對する免疫性を得て最初程は烈しく膨れぬやうになる、下等社會の者が蚊の群がる中に居ても一向平氣で居るのは一ツは蚊毒の免疫となつて居るからであらう尚蚊の生活狀態や撲滅の方法に就て有益なる談話は次回に記す事としやう

▲マラリアの媒介　マラリア熱の流行地には必ずアノフエレスと云ふ恐るべき蚊か居るから此の流行病のある地方の母親は特に注意して蚊の撲滅を圖り小兒が蚊に刺されぬ方法を取らぬと圖らざる不幸を招くことがあるマラリア熱即ち瘧と云ふ病ひは池沼等の濕地に多くあるので之れ迄日本では左して恐るべき傳染病でもなく小兒は必ず一度は瘧を振ふものだ

と誤信した程だ、ソコで此の疾患が傳染するのは人體から人體へ直接に感染するのではなく全く蚊の中のアノフエレスと云ふマラリア蚊が病毒を傳播するのである、蚤や虱は何うかと云ふに此等は人をば刺すが決して傳染の媒介などは致さぬ

▲蚊の食物　蚊の食物は何んであるかと云ふに人類及び動物の血液のみではない一般に蚊の食物とするは植物の汁液である殊に雄蚊は植物の汁液ばかりで生活するので迚も人畜の皮膚を螫して血液を吸ふ丈の嘴を持たぬのである、故に人家や馬小屋牛小屋等の蚊を見ても多くは雌で雄は決して人を悩まし得ぬ、去れど酒を好むことは雌より雄の方が甚しいから下等動物でも男性の方が酒に縁が深いと見える

▲蚊の生存力　蚊の生存力はナカ／＼永いもので溫帶地方にては冬は殆んど跡を絶つたかと思ふても夫れは蚊の姿の見當らないので能く詮索すると臺所の隅や厠の中などに一二匹不活潑な蚊を見出すことがあらうこれは遲く發生した蚊が翌年迄生活するので殊にアノフエレスは注意して見ると冬を越すものは決して少なくない

▲孑孑より撲滅せよ　蚊の驅除法に就ては米國でも非常に困つたことがあつて懸賞で驅除論文を募集したことがある其中で石油散布が最も有力なる方法であつた、夫れは孑孑の時に滅亡するので溝なり泥溜なり又池などに孑孑が發生したらソコへ石油を散布するので一郡なり一ケ村なり共同して蚊の發生地に石油散布法を實行したら經濟的に有効の實を擧げる事が出來る、先づ試驗的なら二三時間で孑孑を撲滅する事が容易であるが溝などでは草や石抔の間に隱場所があつて三四日間は石油を散布の儘で置かなければならぬ、夫れも成可く雨の降らぬ時を選ばないと効力が薄い、石油を散布したら臭氣に堪えられまいと思はふが夫れは素人考へで唯油の層が水面に出來て孑孑の呼吸器に入り呼吸を窒息すれば事が足るから左程多量の石油を要するのでない、デ愈々三四日の後撲滅したと思つたら其水を排除すれば夫れに

越したことはないが石油は自然蒸發して臭氣は失せて仕舞ふ

▲蚊の撲滅法　蚊になつてから驅除するには一室の蚊丈を限らねば撲滅は出來ない、簡便な方法は一室内で除虫菊を燻ずるので此の煙りの爲蚊が昏醉して疊上などに倒れるから夫れを掃きあつめ殺すのである、煙草の煙、虱取粉の燻蒸等も有力なる効があるし、硫黄燻蒸、クロール瓦斯等は室内の器物を損害する憂ひもあるし又人體の害ともなる場合があるから之れは見合せたが安全である尚玆に注意して置くのはステゴミアと云ふ蚊が黄熱病の媒介をする事である此の傳染病は未だ日本には少ないが注意迄にお咄して置くのである

問二　盆栽活花等を始終室内に置くこと特に夜間寢室に置くは害ありと申す人有之候へども右は全く有害のものに候也

一、答　吾人は呼吸により空氣中の酸素を攝取して生命を保續するもので空氣は主として酸窒の二素より成るもので人生に必要なることは恰も魚の水に於けると一般です酸素がいくら人間に必要だからと申ひましても人間は純粹の酸素中には迚も生活することとは出來ませんそこで空氣中には窒素が存在して酸素の含量をうすめるのである今右二問に對して御答へをすれば先づ草木は如何に生活して居るかを申し上ねばなりませぬ御存じの通り人間が空氣を呼吸して炭酸瓦斯を吐き出しますと草木は晝間炭酸を攝取して酸素を吐き出す作用を營んで居りますから人間には尤も草木が必要になつて來るのです併し如何なる樹木が衛生上一番よいかとの御質問に對しては何れも作用が全じでありますから別に選む程の事はないと思ひますが先づイツモ青々として居る所謂常盤木がよいでしやう葉の凋落しないものは酸素を吐き出し空氣を清淨にすることが始終かわりませぬから・・・・併し夜間室内に盆栽とし置くことは僅かばかりであれば差支ありませんツマリ程度問題です總て植物は濕氣を含んで居りますから空氣を濕潤に

し又は肥料などかけてあるものが隨分澤山でありますから是等の爲め自然空氣を惡くしますから夜間は室内に植物は置かぬ方が植物自身のためにもよいし又自分のためにもよいと思ひます

質問者　本鄕一會員

問　私方の小供生れて一年四ヶ月になりしもの頭に（アセモ）が澤山出來て困り入候如何なる注意が必要に候や伺上候但し鼻をよくたらし候まゝ感冒の氣味かとぞんじ入湯させずに置候へどもこれは如何なるものに候や

答　この暑いのに入湯させなくては（アセモ）は益益ふへるばかりて遂には濕疹の樣になりますからお湯に御入れになります前體溫器で小供の溫度を計つて御覽なさい平溫てあれば入湯させて差支ありません小供の鼻をたらすことにソウ恐れてもいけませぬ御湯に入れた跡で其處に次の膏藥を御塗りなさい

ウキルソン軟膏

これは藥劑師の處へ往けば賣つて居ります總てあせもはひどくならぬ内によく始末さへすればよいので殊に太りたる方など股などむれる邊には常に澱粉質ても塗りコスレぬ樣ふり置かれるがよい

質問者　一　婦　人

問　本年廿五才の女にして四五年前より前髮の後ろの處次第にはげ只今にては貳錢銅貨よりも大きなるものに相成種々の手宛も一向に効なし毛髮發生の見込あるものに候や伺上候

二、仝女にして風邪のこゝちともなきに時時鼻つまりまたは物をかぎても少しも臭氣を感ぜすまことに困り居り候鼻加答兒にても起せるものなるや伺上候

一答、コレハ本誌に遠くは土肥博士近くは寺田氏の講話を熟讀せられたし併し毎度申す如く毛根がなくなりては決して生へることはありませんが一時急に禿げた禿髮病には多くは又々發生するのが多い先づ專門の醫師に請ひて生髮劑を貰ひ受けらるべし此前ドナタカの同樣なる質問に對し毛髮發生藥として其

青チンキの處法を記し置きましたがアレハ効能あるも素人方には危險です爲めに皮膚をたゞらすことが強いからです併し其頃の雜誌もよく讀まれたし

二答　鼻加答兒に相違なし暖かにて休まるべし輕症なれば快癒すべし併し鼻茸と申して鼻の中に腫物が出來たのであると其儘にして置けませんからはやく耳鼻科の醫師に就き診察を受けられたし

質問者　靜岡　一會員

問　毛虱(けじらみ)と申すものは如何なるものに候や又之を撲滅する法有之候へは御教示被下度

答　毛虱と云ふものは極めて小さい虫で多く陰部の毛髮に卵を附着し其形ちは白胡麻の樣ですが中々素人方には知れ惡い素人方は陰部の痒きを不審に思ひ漸く發見する位でこれは顯微鏡で見れは小さき平らたき蟹の樣な虫です療法には輕粉又は甘汞と云へる水銀劑又は水銀軟膏を塗りて効ありと知らるべし

質問者　新潟贊成員　本山捨五郎

問　十二指腸蟲症の原因寄生一般の自覺徴候該蟲の形狀、身體に及ぼす害及之を除治せず放置すれば其結果身體に如何なる害毒を及ぼすや併せて該蟲豫防の方法あらば伺ひ度候

答　原因は十二指腸蟲と云ふ蟲が胃の次の十二指腸に寄生して起る病にて此蟲が腸内にありて人の血を吸ひますから其人を貧血に陷らせまして爲めに頭痛倦怠下痢時に血便を泄らし其病症の甚だしきものになりますと甚だしく貧血して(滋養物は皆此虫が吸收してしまいますから滋養物も役に立たず)顔色蠟の如く蒼白となることがあります若し此虫が數千疋も小腸内にやどるときは爲めに人體の滋養分を全く吸收されて營養不足となつて衰弱を來し爲めに死亡するの例は少からず其被害は甚だ恐るべきものである衛生不行屆きなる地方にありては之れが爲め死亡するもの甚だ多しと聞くコレ一は大便内にある蟲卵を認めて十二指腸蟲症の診斷を下さんにも顯微鏡なき醫師にありては確かに斷定をすることが出來

ませんて貧血の治療位に止むるため病氣は愈々重く寄生蟲は益々增殖するに至る醫治により該蟲を驅除することは其結果毫も身體に害毒を殘すことなし若し放置して置けば上記の如く遂には死亡を免れざるべし

豫防法は中々困難なり生水を飲むことを禁じ手足を常に清潔になし生まの果物等を食するを止め器具食器の清潔に注意せらるへし然れども是れは所謂程度問題にて田舍の農業に從事する家庭にありては感染を豫防するは中々困難なことてあるナゼかと云へは田舍にては肥料は勿論なくてならぬ其肥料の內に此虫の卵が糞便內に交ざり田畠に撒布さるゝ然るとき此虫は容易に死滅しませぬから遂には勞働する人の手足に觸れ知らず〳〵の間に口中に入ると云ふことは免れ難いのてあります但し日本の本蟲は西洋の蟲よりは多少害が少ないとは「ベルッ」博士も申されたこともありますが要するに適當の醫師に治療を受けて該蟲を驅除せねばなりませぬ

中外彙報

▲狂犬病豫防告諭　近來狂犬病府下に發生し本年一月以降六月迄既に十八頭而して是が爲咬傷せらたる者三十五名に及び仍此の外非狂犬病にして人を咬傷したるもの二百二十九頭の多數に達したり抑本病は人畜及家禽等に傳染し最も恐るべきものにして衛生上忽にすべからず而して其流行の狀況未だ甚だしきに至らずと雖病犬の數每月增加の傾向あるを以て此の際飼犬は之を鎖錮又は繫留し若し邸外に牽出す場合に於ては口網其の他適當の緘口具を施し且成るべく他犬を接觸せしめざる樣注意すべし若し犬に異狀を生じたるときは直に獸醫の診察を受け又咬傷を受けたる人は速に醫師に就き豫防注射其の他の手當を受くる等豫防上深く注意すべしと安達警視總監は告諭を發せり

▲結婚と女子　獨逸に於る精神病學の大家博士バイエル氏の最新說によれば結婚は男兒に取ては有利な

るも女性に取りては生理的には確に不幸をつくるの動機をなすものなりとのことにて其證明として統計上男兒の精神病者には獨身者多く女性は之に反して獨身者には殆と精神病者を見ざることを數字の上に明示し殊に早婚に對する注意としてヒステリー患者の多くは早婚者にありと結論せり

▲鳳凰城施療病院　赤十字社にては三ヶ月以前より鳳凰城に施療病院を設立し專ら淸國人の施療に從事し居りしが其結果極めて良好にして淸人の診察を乞ふ者頗る多く近頃は日々百餘名の多きに達する事ありと

▲痲疹に就ての注意　昨今痲疹流行の兆あり該病の徵候は先づ發熱頭痛之に加ふるに流涕を以てし而して發疹するものなれば此徵候を見ば猶豫なく相當の手當をなすこと大切なり且つ家庭に注意すべきは子弟の同病に罹れるとき稍快癒したりとて直ちに學校に出席せしむれば之が爲めは往々神經衰弱症を惹起す虞れあり充分全快を待つを可とす猶一般世人に向つても此際あまり冷氣に身を曝して該病誘發の原因をなさゞるやう注意あらまほしと

▲赤痢猖獗（靜岡）　富士郡の赤痢病は益猖獗を極め十六日の現在患者四百八十名に及びたり其最も患者の多きは大宮町百五十人富士目村九十八人鷹岡村九十二人なり何れも數棟の避病舍を設けたるも狹隘を告け目下增築の計畫中なりと

▲サッカリン含有飲食物　近時坊間販賣の飲食物中人工甘味質サッカリンを含有するもの多きを耳にせるが故に試みに東京市内各所に於て菓子、氷水、汁粉、ラムネ、醬油、甘酒及び煮豆等を購入し總計百七十餘種に就きサッカリン含有の有無を驗せり素より少數の試驗を以て全體を臆斷するは困難なりと雖ども氷水、汁粉、醬油（特に下等品を撰みたり）甘酒、煮豆等には多く之を含有し菓子は比較的少なく只餡物の方餡製のものより多くラムネに至りては全く發見せざりしを以て全般に於ても亦之れと類似の傾向を有するものと認む依つて爰に該試驗の報告を

て參考に供せしとす

種類	試驗數	サッカリン含有數
甘味水	五種	一種
氷水	十九種	六種
汁粉	同	四種
醬油	十八種	八種
煮豆	十二種	六種
甘酒	七種	三種
ラムネ	十種	なし
菓子餡物	二十種	十種
同駄菓子	二十四種	四種

▲中毒　千葉縣市原郡姉ケ崎町齋藤幸吉なるもの今回入營の爲め町内のもの四十六名餘にて祝杯を擧げ一同折詰をさげて歸途につき何れも家人と共に打詰を食せしに之れが爲め中毒者二百餘名に達し死者六名を出せしと右は全く海老きんとん等蛋白質含有物が數時間の炎熱に遭ひしため腐敗して有毒なる蛋白即ちプトマインに之を食せしものは或は激烈なる吐瀉を起し或は心臟を犯されて死者を出す迄に至りたるなりといふさるにても夏の食べ物は注意すべきこと擧らずや

▲少女と航海　某船醫の談に船に尤も強きは米國の少女にして歐洲婦人は概して航海に弱きも其内英國の少女は比較的船暈に惱むこと少く其最も弱きは佛國の少女なりと

▲歐米人の牛肉とパンの消費高　一ケ年一人の牛肉量平均は米國人にありて百〇九ポンド伊太利人は二十八ポンド佛國人は八十七ポンド獨逸人は六十四ポンド露西亞は五十一ポンドにして麵包の量は米國人三百八十ポンド伊太利人四〇〇佛國人五四〇獨逸人五六〇露西亞六五五西班牙人は四百八十ポンドなりといふ

▲ペスト　第一の徴候は局部の腺に腫れと赤味を持ち又は腺に痛みを覺へ顏はたゞならず赤かく發達三十八九度となる此際直ちに醫の診斷を受け早く豫防すれば一命は取り留め得べしと其證據としては嘗て香港流行のとき支那人は百人が百人死亡せしも英水兵十二人中十一人は全治したりと云へば不潔は大禁物なりと知るべし

▲夏の井戸　深き井戸には病毒の混入するこら少なく淺き井戸は危險少からず水質から云ふも深き井戸は槪して善良で五間以上の深き井戸は春夏秋冬共槪して攝氏の十度乃至十三度位の溫度を保ち何時も冷たきものなるが故に從つてコレラ、赤痢、腸窒扶斯等の如き惡疫の流行することと稀なるに之に反し淺き井戸は不潔にて有機物の多量なるは勿論溫度も高ければ「バテリヤ」なども增殖し易く便所に近き井戸の如きは尤も不潔にして衞生上宜しからず是等は斷然使用せざる工夫せさるべからず

▲牛乳飮用者の注意　津野獸醫博士の談片、牛乳の配達を受けたら直ぐと其の壜を冷水の中に入れ時々水を取り替へ置くが肝要である、又た置場も包厨などの日光の直射をうくる所にては變敗の恐れあるから成る可く涼き場所を擇ぶがよろしい、夏中は一旦消毒した牛乳でも一度土鍋て煮沸して飮む方が安全である壜儘の湯煎は效驗がうすいから矢張り土鍋を用ふるが好い、又た上に張る皮を嫌ふ人なら煮沸なから淸潔に箸て掻き廻はすとよく混ります、其れから煮沸したのは成る可く冷却して用ゆるが宜い、斯く迄要心しても小兒などに下痢のあつた場合は、一應牛乳屋に注意を與へ、尙ほ改まらない時は斷然其の牛乳屋を取替へることにせむと彼等に對する制裁が行はれぬ

▲ペスト患者一人の費用　東京市內にペスト患者發生するや昨年にありては其豫防及び撲滅に關する費額は患者一名に付約一萬圓を要したりしが本年は其豫防設備に關し經驗を有し且つ昨年使用せし諸種の材料にして尙再び用ゐるを得るある等旁去六月三十日までの調査に依れば患者總數十二名に對し六萬圓を支出したる故一人當約五千圓なり左れば該病豫防に就ては各自大に注意すべき事なりと云ふ

▲吃矯正試驗　伊澤修二氏は頃日吃矯正會にて左の文章を試驗問題として夫々修業證書を與へしと
『河童と龜が賭け事をして勝々山を駈け上り河童は

途中て脚氣に罹り葛根湯を飲んて居た龜は構はずクツク〱と駈け上つて賭物を皆な取てしまつた

「縣廳を建築する事を建白したのは建吉といふ縣會議員てあつた」

「敵國を轉覆するには徹尾徹頭偵察をしてテキパキ敵軍を撤去せしむることてある

▲學位號請求　熊本縣宇土の人澤田唯子女子は眼科に關する論文を出し博士號を請求したりと博士號の請求は同女史を以て嚆矢とすど同女史は獨逸にてドクトルの學位を授けられたるものなりと

▲ペスト試驗室建設　東京市にてはペスト試驗室を新設することを決し遠からず之が工事に着手の筈

▲新患者　ペスト患者深川區發生し頃日本所林町に二名現はれ赤痢、コレラ又追々傳播せんとす危險危險公私共に豫防警戒嚴なれ！



▲衛生と各自の注意　某博士の談と云ふを見るに時節柄必要の節多ければ左に

▲素人は病毒を怖れぬ　稼業とは云へ世の中に醫者程病毒を怖がるものは無からう夫れと云ものは多年の學問と研究と而して實驗上から病毒の怖しい事を知つて居るので手術の前後は勿論平素に於ける消毒や注意と云ふ者は大抵な事てないのに其醫者が偶々病毒に襲はれて倒れると云ふ不幸を見るが其處へ行くと素人は病毒に就ての研究も何も無いからであるけれど一向怖しい感じをせぬ爲に夫れ丈危險千万なのだ

▲病毒は輸入される　本所深川や山の手に就て一は濕氣の地一は乾燥地と云ふ位は誰も知つては居る樣なもの丶何うして又深川方面にペストが湧たか迄は素人の容易に思ひ及ぼす所てなかろう他人が船舶の關係などを云ふと始めて然うかと云ふけれど之が豫防策に努ぬのは誠に嘆かはしいのだ今後共社會の進歩に伴れて種々な病も湧けば又新らしい病が交通の

忙はしくなると同時にドシ／＼輸入される事を豫期して平素の注意を大切にして貰ひたい

▲濕氣地と乾燥地　ペストて深川と船舶の關係を知つてペストには捕鼠を第一に努むれば夫れて足りるが同時に總ての個人衛生がモウ少し發達せねばならぬ從來の例にもある通り何かあると騒いぢや直ぐに下火になつて仕舞ふのは困るソコデ個人衛生の注意の爲幻燈もよし演説もいゝが併し素人に一グラムの水に幾程のバクテリヤが棲息して居ると云つた所で容易に解せぬのみか何の効もあるまいが素人に土地の高低に劇つて分り易いのは先づ梅の木に苔の有ると無いとて山の手の梅は幾程老木ても餘り苔はなし深川から本所へ懸ての梅には非常な苔て素人は唯だサビたとか風流だとか云つて居るが夫れて濕氣と乾燥地とが知れる

▲濕氣地に病毒が多い　學理上濕氣地の水のよからぬ事と夫れから生ずる脚氣や其他赤痢種々な病に就ても平素の注意が肝要てペストなども直接に鼠から來ると思つて居ては大間違だ之は本所深川のみてなく濕氣の多い土地てシカモ雨模様になると必ず床下の蚤が這ひ出して來て人の身體に刺撃するか或は有菌鼠の蚤が這ひ上がつて人の身體に病毒を注射して居るのかも知れねば大いに考へて貰はねばならぬことだ

▲下水掃除の注意　全體東京の市民が飲料水の善惡に心付いて大金をかけて水道と云ふものを起工すると同時に何故下水の改良をせなんだかとの攻撃も屢々耳にするが夫れは今更詮ない事て此仕事は今日の所では大々工事て困難だけれど遠からぬ内に之が改良の方法を採らねば何時迄經つても病毒の根を斷つ事は出來ぬのだ

▲個人衛生のモデル　之れは至つて詰らぬ例であるが　私の知己に潔癖家の人があつて此人は毎朝床を離れると直ぐに戸外へ飛出して晴雨に拘はらず自分の所の溝は云ふ迄もなく隣の溝の掃除迄するが第一に水の捌けがよくて何時も美麗になつて居れば此處

丈けは孑孑や蛭の湧いた例はないが個人衛生と云ふものが何うか斯樣風に盛んに行はれゝば病毒を未發に防ぎ遂には撲滅する事は出來るだらうと思ふ」云々

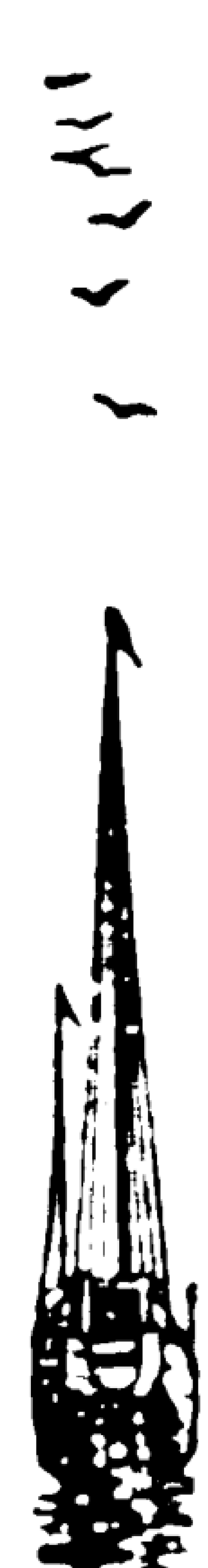
▲赤痢豫防　赤坂區内にては本月一日以來十四名の赤痢患者ありたれば夏季休暇に際し赤坂小學校にては左の注意書を各父兄に發したりと

△朝は早く起き、夜は早く寢るべし△寢るときは腹のひえぬ樣用心すべし△毎朝すゞしき間に、學科の復習をなすべし△毎日程よき運動をなすべし△高等科の兒童は、休業中の日誌をしるすべし△庭をはき水をまくなど、其他家事の手傳をなすは運動ともなるゆゑ勉めて行ふべし△自分のものは自分で始末する樣にすべし△炎天に頭をさらさぬ樣、又夜露にあたらぬ樣用心すべし△晝寢をせぬ樣にすべし△こなれ惡しきもの又は不熟の果物などを食べぬ樣にすべし△氷水はもちろん、湯又は茶にても澤山のまぬ樣にすべし

大日本婦人衛生會記事

七月例會

七月一日午後一時半より例により神田區一ツ橋通女子職業學校内に於て例會を開く醫學博士北島多一氏のペスト談及び醫學博士朝倉文三氏の婚姻と腎臟炎に關する講話ありたり當日出席の役員には濱尾副會長、岡田德子、鳩山春子、石川貞子、高木かう子、小川孝子、三浦敎子、田村きよ子（出席順）等にて鍋島會長にも御出席あり午後四時過ぎ散會せり因に來八九の兩月は炎暑中に付休會の旨を報じたり



◎傷病者帽子寄附

一金壹圓　麻布區三軒屋町二十　松崎すゞ子
一金貳拾錢　神戸山本通四ノ一〇一　桑原春子

茨城支會報告

◎六月例會

六月廿五日（第四日曜日）午後一時より水戸市大町

女子師範學校講堂に於て例會を開く仝市聯隊區員葉梨協太郎氏及び宇田川懋兩氏の實戰談ありて午後四時閉會出席者は四十五名なりしと

五月總集會の節會長副會長幹事改撰の結果は左の如し

會長　寺原松子
副會長　豊田芙雄子
幹事　西久保みさ子　仝　朝倉のぶ子
仝　檜山やす子　仝　小野松子
仝　宇佐美すゑ子　仝　大森順子

○幹事佐木すゑ子には今回宇佐美と改姓せらる

新潟支會報告

○七月例會

當支會と新潟市婦人教育會及帝國婦人協會新潟支部と聯合の上來越中なる女子高等師範學校下田次郎氏を聘し本月三日月曜日午後二時より新潟縣立高等女學校講堂にて女子教育に關する講話を請ひしが來聽者は各種の婦人會員夫人、外國婦人、女教員、高等女學校、女子工藝學校、産婆學校生徒約八百名にして最初森田高等女學校長の開會の辭あり次に學士は各方面より觀測したる婦人問題を最も平易に講話せられ益を受ること尠からざりしと仝五時散會

●新潟支會に於ける役員の改選結果

會長　竹山れつ子
幹事　醫士夫人　中村しげ子
仝　辯護士夫人　古閑初瀬子
同　醫學士夫人　澁川たま子
仝　本縣事務官夫人　佐柳千代子
仝　中學校長夫人　多田しか子

●評議員の部

工學博士夫人　小柴きく子	實業家夫人　鍵富こう子
醫學士夫人　若杉きく子	技師夫人　加藤かう子
齒科醫士未亡人　中村きん子	技師夫人　梅木しづ子
元技手夫人　吉村きよ子	技手夫人　渡邊くら子
醫士夫人　荒川てい子	辯護士夫人　坂本いち子
辯護士夫人　高橋たゞ子	實業家夫人　關やい子
實業家夫人　清水くり子	仝上　八木ゑい子
醫學士夫人　澤田いち子	實業家夫人　鍵富しん子

辯護士夫人　高橋なみ子　産婆學校敎師　田中まち子



山形支會例會

●六月例會

六月十日第二土曜日午後一時より山形市女子師範學校内に於て例會を開く岩本副會長を初め會員諸婦來會割烹實習の後北島講師には左の演題にて講話せられ四時頃散會せり

一學齡時に於ける疾病に就て　北島講師



寄送書

村井弦齋著
實地經驗臺所重寶記　全壹冊
正價八拾錢發賣所京橋出雲町一番地新橋堂書店

右は弦齋氏より寄送せらる本書は著者が家庭に於て實驗せる所を親切に且有益ならんことを期し著述したるものなれば臺所に於て使用する飲食物の吟味は細大漏さず卷中章を三十一に分ち又之を細別して二百八十六問答とし何れも理解し易き樣妻君と下女との問答體としたれば讀むに倦むなく興味の内に自から飲食物に關する利害得失を講究せらるべし一家の主婦たる人の座右に備ふべき良書なり

古屋鐵石述一名催眠術奥義
催眠術獨稽古（附動物催眠法）
菊版百十六頁定價四十錢　郵稅四錢
東京下谷區谷中坂町三十六　大日本催眠術會發行

本書は多年催眠術の敎授に從事せる古屋氏の著書にして仝氏が經驗上從來通信敎授によりて施術自在とならしめたる敎案の要旨を摘錄して編輯したるものにて緖言に催眠術は治療矯正に應用するの外万人之を修めて自から智識を開發し精神を修養し而して事業の成効に効力少からずと說き同術に關する奇絕の諸法を網羅して誰人も本書により同術の行ひ得べきことを說けり

●本會入會者

○淺草岩田晴子紹介
●芝區高輪町六十八　特別會員　若林よね子
○淺草鹿野信子紹介
●京橋區木挽町九ノ三十一　通常會員　鹿島磯子
○本郷諏訪なみ子紹介
●秋田縣鹿角郡大湯村　通常會員　諏訪みよ子
●仝　通常會員　吉田とく子
●仝　通常會員　谷地なか子
●東京大學病院三浦内科新室　通常會員　四戸いま子
○事務所へ申込
●東京府下小笠原島母島沖村　篤志看護婦人會
●麹町區三番町四十　通常會員　阿久澤　子
●上野櫻木町十八番地茨城ヨリ轉會　通常會員　駒杵三春子
●京橋區北槇町十八番地ヨリ仝仝　萩原五百枝子
●山梨縣北都留郡富澤村二六九　通常會員　黒部はな子
●東京本郷第一醫院　通常會員　井上つや子
●京都市上京區東に入三本木丸太町上る　通常會員　土屋春子
●麹町區下二番町四五同生病院内　通常會員　小山房子
○濱尾副會長紹介
●赤坂區新坂町三十　特別會員　櫻田節彌子

○麹町武笠美以子紹介
●牛込區市谷富久町四十八　通常會員　和田いね子
○中野ふさ子紹介
●本郷區千駄木林町十七　特別會員　中野喜代子
○福岡佐藤澄子紹介
●筑前國鞍手郡勝野村西部古河鑛業所內　通常會員　西崎幸子

●高崎支會入會者

○相川すか子紹介
●高崎市田町　通常會員　篠原よね子
○相川まさ子紹介
●仝市住吉町二　通常會員　吉野よね子
●越後國魚沼郡大君田村　通常會員　梅澤はつ子
○矢島あき子紹介
●仝市旭町四十三　通常會員　矢島やす子
○町田まつ子紹介
●仝市下横町三　通常會員　山内ふさ子

●會員種類變更

●通常會員改め　特別會員　星野きよ子
●仝上　特別會員　篠原巳和子

●新潟支會入會者

○田村みち子紹介

●新潟市上旭町一番町　通常會員　玉川たま子

○中村幹事紹介

●仝市本町十二番町　通常會員　村山のぶ子

○竹山會長紹介

●仝市西堀通七番町　通常會員　和田ゆき子

●山形支會入會者

○岩本副會長紹介

●山形市　特別會員　中川浪江子

○北島講師紹介

●　通常會員　安井ふく子

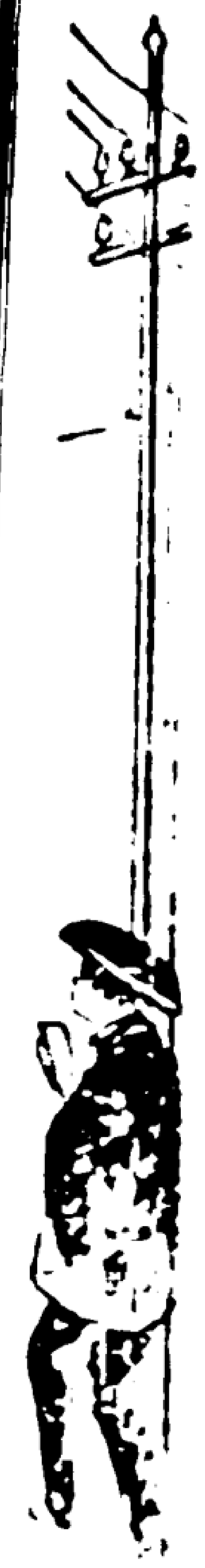
●茨城支會入會者

●　通常會員　西原仁子

●　通常會員　鈴木かつ子

●宇都宮支會

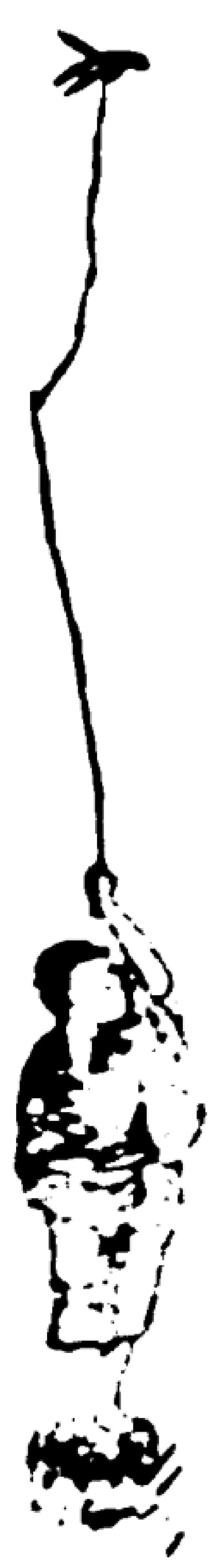
●通常會員改め　特別會員　白仁まさ子



●轉居

▲會員諸姉御轉居の際は可成新舊兩所御記入御一報相願候

●牛込區余丁町百八番地へ　安田定子
●日本赤十字社病院へ　山田維子
●千葉縣東葛飾郡市川町字寒室へ　兵頭かほる子
●牛込區市谷藥王寺前町八十三へ　古川のぶ子
●赤坂區青山南町六ノ十四へ　多々良と代子
●下谷區北稲荷町五十一中村氏方へ　秋田いちえ子
●相模橫須賀深田二四三へ　南條榮子
●府下北豐島郡日暮里村大字金杉へ　庭井靜子
●信濃飯田伊賀村頁中村へ　久保田ぶん子
●豐前國企救郡足立村ノ内字富野へ　田中直子
●岐阜市上竹町松野氏方へ　長尾愛子
●芝區櫻川町室氏方へ　岡村しげ子
●赤坂區青山北町五ノ四十八へ　柴田つる子
●赤坂區靈南坂町三十一へ　矢部ふさ子
●牛込區南榎坂町十五へ　關計撫子
●淺草區森田町二十へ　中島四津子
●赤坂區青山南町六ノ一一八へ　竹中春子
●京橋區金六町六番地へ　越智雪子
●豐前國企救郡足立村大字三萩野へ　鹿野とめ子
●下谷區上野櫻木町三十八へ　駒杵みはる子



●交換寄贈雜誌（六月分）

●日本赤十字	京橋區築地二ノ二十一	日本赤十字發行所
●日本衛生週報	甲府市佐渡町十五	日本衛生週報社
●日本婦人	府下澁谷村常盤松御料地內	帝國婦人協會
●新潟縣衛生會雜誌	新潟縣廳內	新潟縣衛生會
●日本橋區衛生協會雜誌	日本橋區永久川岸八	日本橋區衛生協會
●日本皮革時報	本所區表町五十七	益世社
●日本實業新報	武藏入間郡川越町	日本實業新報社
●日本の家庭	神田區表神保町二	同文館
●北海實業新報	北海道札幌北三條東三丁目	北海實業新報社
●統計集誌	京橋區山城町六	東京統計協會
●東京藥事新報	京橋區桶町四	東京藥事新報社
●東京教育雜誌	神田區錦町一ノ二十	東京教育雜誌發行所
●東京市教育會雜誌	東京市役所內	東京市教育會
●東京小間物化粧品商報	日本橋區馬喰町二丁目	東京小間物化粧品卸商所
●をんな	麴町區下二番町三十七	大日本女學會
●大坂醫學會雜誌	大坂東區淡路町二丁目	大坂醫學會
●大坂タイムス	大坂北區天神橋筋六丁目	大坂タイムス社
●家庭新聞	熊本北新坪井町	家庭新聞社
●學校衛生	本郷區西片町十ろノ九	學校衛生研究會
●家庭雜誌	麴町區中六番町十	由分社
●家庭	東京巣鴨二二五五	家庭社
●家庭乃栞	新潟縣女子師範學校內	新潟縣女子教育會
●家庭	福岡市船町十七	家庭新聞社
●萬問答誌	茨城縣板橋村	萬問答社
●大日本婦人教育會雜誌	麴町區永田町一ノ十九	大日本婦人教育會
●大日本私立衛生會雜誌	京橋區宗十郎町七	大日本私立衛生會
●體育	府下大井村北濱川	日本體育會
●通俗衛生	大坂西區土佐堀通	大坂私立衛生會
●牟婁新報	和歌山縣西牟婁郡田邊町	牟婁新報社
●藥學雜誌	牛込區下宮比町八	日本藥學會
●藥石新報	大坂西區江戸堀下通	藥石新報社
●藥業公論	府下內藤新宿北裏町	藥業公論社
●藥業時報	神田區鍛冶町廿一	藥業時報社
●藥林	府下澁谷村青山南町七丁目	藥林社
●經濟新報	麴町區永田町二ノ十三	經濟新報編輯部
●婦人世界	大坂南區末吉橋通	浪華婦人會
●婦女新聞	牛込區東五軒町	婦女新聞社
●婦人新報	赤坂區榎坂町	婦人新報社
●婦人と子ども	本郷區女子高等師範學校內	フレーベル會
●婦人	神戸市三ノ宮町二丁目	婦人協會
●福田會月報	麻布區笄町	福田會育兒院
●國家醫學會雜誌	本郷區富士町一	國家醫學會雜誌發行所
●工手の母	大坂北區西野田新家西の町	工手の母新聞社
●交通世界	埼玉縣浦和町	交通協會
●衛生報知	神戸相生町一ノ廿七	私立神戸衛生會
●越佐教育雜誌	新潟市東仲通一番町	越佐教育雜誌社
●衛生談話	麴町區飯田町四ノ三十	通俗衛生茶話會
●英學新生	小石川區小日向台町	東四社
●衛生新報	下谷區池之端仲町	衛生新報社
●産科婦人科學雜誌	日本橋區濱町三丁目	産科婦人科學會
●草樂新聞	大坂心齋橋筋	草樂新聞社
●産科婦學雜誌	日本橋區濱町三丁目	日本産科婦協會
●埼玉衛生新誌	埼玉縣北足立郡浦和町	埼玉衛生新誌
●躬行會叢誌	芝區三田綱町	躬行會叢誌出版部
●兒童教育	神田區末廣町十	兒童新聞社
●經濟學雜誌	小石川駕籠町東京醫科大學精神學教室內	日本神經學會
●廣島衛生醫事月報	廣島市猫屋町	廣島衛生醫事月報社
●醫所直實記	相州平塚停車場南	村井弦齋君
●催眠獨稽古	下谷區中坂町卅六	大日本催眠術協會

私立大日本婦人衞生會

新潟支會規則

●第一條 本會は大日本婦人衞生會に屬し婦人衞生の研究を目的とし兼て一般慈善事業を爲すにあり●第二條 當支會の會費は左の六種とす終身會員一時限り出金貳拾五圓 特別會員毎月金參拾錢通常會員甲毎月金拾錢乙仝金五錢●第三條入會せんとするものは役員に申出て其承認を得べし●第四條會費毎月拾五錢以上を納むるものには本會衞生雜誌を配布す●第五條會費は雜誌料として一部を本會へ納め殘金は銀行へ貯蓄して衞生慈善資金とす●第六條 支會には會長一名副會長一名評議員十五名幹事五名理事一名を置く會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す 各役員の任期は一ケ年とし再撰するを得役員は總て無給とす●第七條 支會は毎月六日通常會を開き衞生及び慈善に關する演說をなすべし●第八條 毎年一月總會を開き支會の要務を擧行す●第九條 本會は毎年春期懇親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし●第十條 天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては特に會員中の有志者より物品の寄贈を募ることあるべし 會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は賛成員となすべし●第十一條 一般慈善事業の賛助 天災事變の救濟の事務は役員會の決議により實施するものとす●第十二條 支會々員は服裝其他を質素にし集會の際は成可く綿服を着用すべし●第十三條 特に本規則に揭げざるものは私立大日本婦人衞生會の規則を準用す

明治廿九年四月創立

事務所新潟市本町通十三番町中村しけ子方

新潟支會

私立大日本婦人衞生會

山形支會規則

第一條 本支會は私立大日本婦人衞生會々員山形市在住者を以て組織す●第二條 本支會に會長副會長の外幹事四名商議員若干名を置く會長副會長は公撰し幹事商議員は會長之を撰任す 役員の任期は一ヶ年とす●第三條 本支會は毎月一回(第一日曜日)講話會を開き毎年一回(五月)總會を開き講話の外役員の撰擧庶務會計の報告をなす●第四條 入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依頼すべし 本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出つべし●第五條 本會々費は會計幹事に納むべし但し六ヶ月又は一ヶ年分新に入會のものは 其月より六月又は十二月迄の分を一時に納むべし●第六條 服裝は精誠質素なるを要す上衣及羽織は絹布を用ひるを禁ず

明治三十三年二月四日創立

事務所山形市旅籠町新築四通二百八十九、北島氏方

山形支會

私立大日本婦人衞生會

宇都宮支會規則

第壹條 本支會ハ私立大日本婦人衞生會宇都宮支會ト稱ス●第貳條 本支會ニ會長一名副會長一名評議員拾五名幹事四名ヲ置ク會長副會長ハ公撰シ評議員幹事ハ會長之ヲ撰任ス各役員ノ任期ハ一ヶ年トス●第參條 毎月壹回(第一日曜日)講話會ヲ開キ毎年五月講話ノ外役員ノ改撰庶務會計ノ報告ヲナス●第四條入會ハ宿所姓名ニ第五條ノ通リ會費ヲ添ヘ本事務所ヘ申込ミ又ハ會員ニ紹介ヲ依頼スベシ本支會ヲ脱會又ハ本會ヲ退會セントスルトキハ其旨事務所ニ屆出ヅベシ●第五條本會々費ノ外別ニ支會々費ヲ要セズ會費ハ一時ニ六ヶ月又ハ十二月分、既ニ入會ノモノハ其月ヨリ六月又ハ十二月迄ノ分ヲ納ムベシ●第六條本支會ハ別ニ支會々員ヲ置キ支會會費トシテ一ヶ月金五錢ヲ納ムルモノトス●第七條講話會ニ出席ノ節ハ成ルベク家族又タハ知合ノ婦人ヲ誘引シ傍聽セシムベシ●第八條服裝ハ精誠質素ナルヲ要ス上著及羽織ハ絹布ヲ用フルヲ禁ズ第九條特ニ支會規則ニ揭ケザルモノハ本會ノ規則ヲ準用ス

明治三十四年二月三日創立

事務所宇都宮市馬場町

宇都宮支會

私立大日本婦人衞生會

米澤支會規則

第一條 當會は私立大日本婦人衞生會米澤支會と稱し衞生上の研究を目的とし互に智識を交換し社會の幸福を增進するにあり

第二條 支會事務所は當時假に免許町一三六九番地猪股方に置く

第三條 當支會に會長一名副會長一名幹事五名を置く其任期は各一年とす

第四條 毎月一回(第二日曜午後一時より四時迄)講話會を開き毎年五月總會をなし役員改撰庶務會計等の報告をなす

第五條 入會は會員の紹介を經て宿所姓名に會費を添へ事務所へ申込又退會せんとする者は其旨事務所に屆出べし

但し已納の會費は返附せず

第六條 當支會の會費は左の三種として 特別會員毎月金參拾錢通常會員甲毎月金拾五錢乙毎月金五錢前納するものとす

但會費拾五錢以上納むる者には本會雜誌を配附す

第七條 會費は雜誌料として本會へ納め一部は支會經費に充て殘餘は銀行へ貯蓄して支會事業の資金となす

第八條 會員及員外篤志者より金品の寄贈あるときは役員協議の上特待員又は贊成員となすへし

第九條 講話の節は汎く婦人の傍聽を許す

第十條 支會々員の質素を旨とし集會の際は可成木綿服を着用する事

第十一條 特に支會則に揭げさるものは本部の會則を準用す

事務所米澤市免許町一三六九

米澤支會

私立大日本婦人衞生會茨城支會規則

開設の趣旨及目的　凡人生の幸福を保持するには完全なる教育を望まざる可からず之を望んとするには必や衞生と相俟ちて而る後ち始めて全き事を得るならん。されば吾人は現今東京に於る該本部に陳じて更に茨城支會を開設し吾人が日常實行する衞生の事項をなして益研究し益改善を圖りて其の發達を互に努め力めんとするに在る而已●本會は私立大日本婦人衞生會茨城支會として之を當水戸市に置く●本支會々員たるを望む婦人は何人にても入會することを得●入會手續入會の節は氏名族籍住所等を明記し本支會事務所に申込むものとす。但し會員證は東京本部へ通知し然るのち之を交附すと雖とも徽章代は豫め前納せらるべし●會員種類會員を分ちて特別。通常。終身の三種とす終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三十錢以上通常會員は一ヶ月拾五錢を納むると●男子にして本支會の趣旨を贊成する者は之を贊成員とす●本支會員は本部にて毎月發刊する雜誌を無料にて受くることを得●退會せんとするものは其旨本支會事務所に報知すべし(只死亡等は親戚知人より通知せらるべし)●本支會に左の役員を置く支會長一名、副支會長、幹事六名、評議員十名、書記、會計、庶務は幹事中より各二名づゝ互撰分擔す●役員は任期滿一ヶ年とし毎年五月總會にて投票を以て之を定む●集會は例會總會評議員會及臨時會とす集會八月を除く外毎月一回第三の日曜日に之を開く總會は五月適宜の日を以て之を開く急要の件あるときは臨時會若くは評議員會を開きて評議する事あるべし●毎會學識經驗ある知名の士に囑托して衞生上の講義演說又は之に關したる實驗等をも爲し本支會員に聽講せしむ但會員は知人家族等誘引して傍聽することを得(此際出席の衣服は總て質素たるべし)●會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は會費を滯納するものある時は本支會長評議會の決議を經て除名する事あるべし●茲に記述したる數項の他その必要と認むべき事項あらば成る可く本部規則を適用するものとす

明治三十四年十月創立　水戸市上市町見小路二十五番地　茨城支會

私立大日本婦人衞生會高崎支會規則(明治三十五年四月創立)

●第一條　當支會は大日本婦人衞生會に屬し汎く婦人をして人生の健康を保持する方法を講究し衞生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するを目的とす●第二條　當支會は大日本婦人衞生會高崎支會と稱し事務所を高崎市寄居町五十番地に置く●第三條　當支會は高崎地方在住の本會々員と支會限りの支會員とを以て組織す●第四條　本會又は支會の會員たらんとする者は住所姓名及び會員の種類を詳記し三個月分以上の會費を添へ申込まるべし●第五條　當支會に學術其の他の裨益を與へらるゝ人士を推して講師又は篤志贊助員となす●第六條　當會員にして轉居死亡又は退會の時は速に其旨事務所に通報せらるべし●第七條　支會に左の役員を置く會長一名副會長一名幹事六名評議員十二名●第八條　役員は會員中より公撰し會長副會長は役員中より互撰す又幹事評議員は役員中より會長之を指名す但役員の任期を一箇年とし再撰するを得●第九條　本會の特別贊成員を定員外の評議員とす●第十條當支會は毎月一回講話會を開き毎年一回總會を開く者とす總會に於ては講話の外役員の改撰會務の報告等をなす●第十一條　會員及贊成員の家族並に篤志贊成員は集會に參列するを得但時宜により男子の參列は謝絕することあるべし●第十二條　本會々員は本會費の外別に支會費を要せず支會限りの會員は支會費として一箇月金五錢を出す者とす●第十三條　總て會費の徵收は集會の席上に於てするを例とす但三箇月分以上宛前納すべし●第十四條　支會の所有金は支會の名義を以て銀行に預け置くものとす●第十五條　會員又は會員外より金員物品の寄附ある時は之を受納す●第十六條　本會所有の金員物品を懇親會等に使用せんとするときは衆議に諮るものとす●第十七條　會員は服裝其他を質素にし集會の節は時間等を確實に履行すべし●第十八條　特に此規則に揭げざる者は本會の規則を準用す

●事務所　高崎市寄合町五十番地　高崎支會

竹中成憲先生新著（一名醫者の來る迄）

衛生寶典

袖珍美本 金七拾錢 郵税八錢

右は内科、外科等あらゆる病名をイロハ引とし其名稱の由來、病の原因、其徴候及攝生法は勿論素人の心得べき治療法の要點を平易に記述せるもの也、世上此種の書なきにあらざるも悉皆野卑にして家庭に入るゝべきものなし本書は即ち其弊風を一洗せむが爲め特に著者の物せられたる者也

東京本郷區湯島天神町二ノ三六

凰文堂

▲看護婦産婆諸君は必一本を携帯せらるべし

速記應囑

事務所の特長は深切にして然も迅速なるにあり◎女流の會合にして男子を近け難き場合若くは著述家飜譯家等の爲めには特に女子の速記者をして之に當らしむ

麹町區富士見町五丁目九番地

仙速記事務所

電話番町四十八番

竹中成憲先生著書中素人諸君に適するもの

▲肺結核療法（總ての療法悉集めあり） 貳圓四拾五錢

▲肺結核豫防法（豫防攝生の方法を示す） 參錢郵劵拾八枚

▲産婆學（再版）（教授受驗の目的に適す） 同 參拾枚

▲ペスト（黑死病）（原因徴候及豫防法を示す） 同 九枚

▲肥滿の療法（よりたる人やせる法） 同 九枚

▲救急法（怪我の急病應急の手當） 同 拾貳枚

▲衛生寶典（内科諸病を一々說明す） 同 廿六枚

（皆郵税共）

東京市本郷區春木町貳丁目 半田屋

東京湯島天神町貳丁目卅六 凰文堂

東京市神田區鍛冶町四番地 誠之堂

高橋齒科醫院

東京日本橋區本町二丁目（電話本局千六百六番）

診察時間 午前九時ヨリ午後五時迄

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條 大日本婦人衛生會々員は其會員たることを表するため左の徽章を用ゆ





●本會徽章料左の如し

●通常會員章

第三號 メッキ製拾二錢、送費六錢

●第二號 正銀製四拾錢、送費六錢

●終身及特別會員章

第一號 七十錢(黑檀箱入送費九錢)

六十錢(桐箱入送費六錢)

第二條 會員章は本會幷に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條 本會徽章は右の實價を以て會員に頒つ

●入會注意

●御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるへし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らず御前納のこと●東京府下に限り毎月雜誌の配達を兼れ會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收者差出不申候但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料をも御納付相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局(東京牛込築土八幡町郵便局)宛振出あるべし●會費受領證を要する節は送費として郵券一錢ヵ封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

●會員御紹介下され候御方には其人數丈の本會雜誌進呈

東京市牛込區上宮比町八番地
發行所 私立大日本婦人衛生會

東京牛込區矢來町三番地
編輯兼發行人 田中德三郎

東京牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地
印刷人 渡邊智

東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地 株式會社秀英舍第一工場印刷

明治三十八年七月二十五日印刷及發行(毎月一回二十日發行)
婦人衛生雜誌第百八拾八號